

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、立川市の子どもが安心していきいきと生活できるまちづくりが実現できているかを知るために、立川市が実施しました。子どもの自己肯定感や信頼できる人の有無、苦しくても頑張った経験、相談機関や子どもの権利についての認識について調査することで、現状と課題を探り、今後の施策づくりや取り組みに生かすことを目的としています。

2. 調査方法

(1) 調査対象

小学生：全市立小学校(20校)に協力を依頼し、各校5年生の1クラスを抽出し実施しました。

中学生：全市立中学校(9校)に協力を依頼し、各校2年生の1クラスを抽出し実施しました。

(2) 調査方法

各小・中学校において、学級活動など可能な時間内に、担任教諭から調査票を配布し、回答の上、その場で回収する方法で実施しました。

(3) 調査期間等

平成28(2016)年	4月8日	小学校校長会・中学校校長会に提案・依頼
	4月下旬	各校に調査票送付
	5月	各校において調査実施
	6月	集計・速報版作成
	7月～3月	分析・報告書作成

(4) 回収結果

小学生

	回答者人数	5年生全体人数※1	全体に対する回答者割合
男子	311人	708人	44%
女子	308人	680人	45%
合計	630人※2	1,388人	45%

中学生

	回答者人数	2年生全体人数※1	全体に対する回答者割合
男子	156人	680人	23%
女子	151人	652人	23%
合計	310人※3	1,332人	23%

※1 「H28年度児童・生徒数(教育委員会学務課)5月1日時点」による

回収率 99%

※2 性別無回答 11人を含む ※3 性別無回答数 3人を含む

(5) 調査の設計・集計・考察

調査は、教育部指導課及び小学校校長会・中学校校長会の協力を得て、子ども家庭部子育て推進課で実施しました。なお、結果の分析・考察については、恣意的な分析や解釈を避けるため、事実に基づいた結果の記述を中心に行いました。

3. 調査内容

問 1	回答者の性別
問 2	自己肯定感の有無や、社会に役立ちたい気持ち
問 3	自分の家庭について
問 4	ホッとでき、安心していられるところ
問 5	自分のなやみなどを何でも話せる人
問 6	楽しかったことなど、自分が話したいことを何でも話せる人
問 7	大切に思ってくれていると思う人
問 8	家や学校・地域での役割
問 9	夢やなりたい職業の有無
問 10	苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験
問 11	立川市の相談機関を知っているか
問 12	どんなところだったら相談しようと思うか
問 13	子どもの権利条約を知っているか
問 14	子どもの権利（人権）に関心があるか
問 15	子どもの権利（人権）としてどんなことが大切だと思うか
問 16	大人に心がけてほしいこと
問 17	子ども自身が社会の一員として果たすべき義務や責任
問 18	他人の権利（人権）を侵害していると感じること
問 19	子どもの権利（人権）をみんなが知ったときの効果や影響
問 20	子どもが社会に参加する機会としてどんな活動がいいか

4. 報告結果の見方

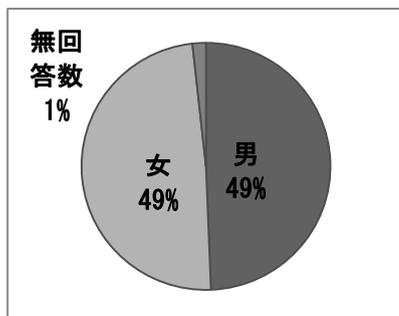
- (1) 割合の数値については、端数を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合もあります。
- (2) 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると、100%を超えることとなります。また、男女比較については、性別の未回答がいるため、総数が一致しないことがあります。
- (3) 自由記述については、寄せられた回答を、項目ごとに整理し直して収録しています。なお、回答の整理にあたっては、漢字表記や言葉遣い等の明らかな誤りは訂正しましたが、原則として原文をできる限り尊重し、原文の意味を損なう訂正は行っていません。また、類似する意見も1つに集約することなく並列的に収録しました。
- (4) 掲載の図表番号はアンケートの質問項目番号に対応しています。ex.【問 1】⇔図 1

5. 過去に実施した「子どもの自己肯定感などに関する調査」について、今回の内容と同じ質問内容で下記のとおり実施しました。

第 1 回	平成 18 年 12 月	対象：中学 1～3 年生
第 2 回	平成 20 年 10 月	対象：小学 6 年生
第 3 回	平成 23 年 6 月	対象：小学 5 年生・中学 2 年生

Ⅱ. 調査結果（小学5年生）

（問1）「あなたの性別を教えてください。」から回答者数等を集計しました。市内小学5年生人数 1,388 人（全体人数）に対して 630 人（45%）の児童から回答を得ました。その内訳は、男子 311 人、女子 308 人と性別無回答 11 人でした。回答した児童の男女比は【図1】の通りです。



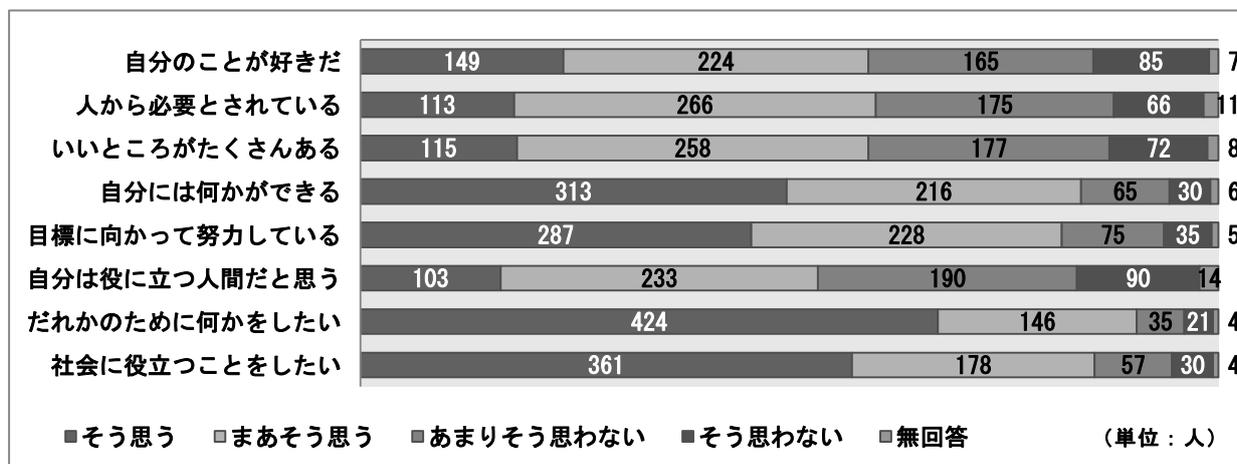
【図1】 調査回答児童の男女

1. 立川市の子どもの自己肯定感の現状

「子どもの自己肯定感」については、昨今、子どもの育ちをめぐるさまざまな場面で大きな論点となっています。今回の調査においては、子どもたちに対する質問紙上の用語解説で、「自己肯定感」について次のような説明を付けました。

自己肯定感とは…自分が生きていることには意味がある、自分は愛される価値がある、自分は大事な存在である、自分には何かできる、などと、自分自身を肯定的にとらえる感覚をいいます。生きていく上で、とても大切な感覚です。

（問2）「あなたは、自分のことについて、次のようなことを思いますか。」では、このような認識に立ち、自分のことを肯定的にとらえ、自分は役に立つと感じているかどうかを子どもたちに答えてもらったところ【図2】のようになりました。



【図2】 子どもの自己肯定感などについて

またこの結果を

- ・「**そう思う**」「**まあそう思う**」と回答した児童 ⇒ 肯定的回答グループ
 - ・「**あまりそう思わない**」「**そう思わない**」と回答をした児童 ⇒ 否定的回答グループ
- の2つのグループに分けて比較したところ、次のようになりました。

質 問	グループ	人数	割合
① 自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	373 人	59%
	否定的回答グループ	250 人	40%
② 自分は人から必要とされている	肯定的回答グループ	379 人	60%
	否定的回答グループ	241 人	38%
③ 自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	373 人	59%
	否定的回答グループ	249 人	40%
④ 自分には何かができる	肯定的回答グループ	529 人	84%
	否定的回答グループ	95 人	15%
⑤ 自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	515 人	82%
	否定的回答グループ	110 人	17%
⑥ 自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	336 人	53%
	否定的回答グループ	280 人	44%
⑦ だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	570 人	91%
	否定的回答グループ	56 人	9%
⑧ 社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	539 人	86%
	否定的回答グループ	87 人	14%

【表 2-1】子どもの自己肯定感などについて

各回答グループの割合をみると、すべての項目で肯定的回答グループが否定的回答グループより上回っています。特に「**⑦だれかのために何かをしたい**」「**⑧社会に役立つことをしたい**」の2項目については、85%以上という高い値になっており、他者や社会に対して何かしたい、役に立ちたい、という気持ちをかかなり多くの児童が抱いていることがわかります。また、「**④自分には何かができる**」「**⑤自分は目標に向かって努力している**」の2項目では80%以上という値になっており、将来への可能性や方向性のイメージを持っている児童が多いことがわかります。

男女差についてみると「**⑤目標に向かって努力している**」の肯定的回答グループにおいて、男子 242 人（78%）に対し女子 263 人（85%）と 7 ポイントの差がありました。また、「**⑦だれかのために何かをしたい**」の肯定的回答グループのうち「**そう思う**」を選んだ割合は、女子 290 人（94%）に対し男子 269 人（86%）と 8 ポイントの差がありました。このほかの項目については、男女の割合はほぼ同じでした。

質 問	グループ	男子		女子	
① 自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	183 人	59%	182 人	59%
	否定的回答グループ	124 人	40%	123 人	40%
② 自分は人から必要とされている	肯定的回答グループ	179 人	58%	192 人	62%
	否定的回答グループ	128 人	41%	110 人	36%
③ 自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	179 人	58%	187 人	61%
	否定的回答グループ	127 人	41%	118 人	38%
④ 自分には何かができる	肯定的回答グループ	257 人	83%	262 人	85%
	否定的回答グループ	50 人	16%	44 人	14%
⑤ 自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	242 人	78%	263 人	85%
	否定的回答グループ	64 人	21%	45 人	15%
⑥ 自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	164 人	53%	163 人	53%
	否定的回答グループ	140 人	45%	138 人	45%
⑦ だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	269 人	86%	290 人	94%
	否定的回答グループ	38 人	12%	18 人	6%
⑧ 社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	265 人	85%	263 人	85%
	否定的回答グループ	43 人	14%	44 人	14%

【表 2-2】子どもの自己肯定感などについて

今回と同じ質問項目で平成 20 年に小学 6 年生、平成 23 年に小学 5 年生を対象に実施した時の結果を肯定・否定グループに分けて比較しました。平成 20 年では調査対象の学年は異なりますが、「①自分のことが好きだ」「②自分は人から必要とされている」「③自分にはいいところがたくさんある」「⑥自分は役に立つ人間だと思う」の 4 項目において、否定的回答グループが過半数を超えていました。平成 23 年には肯定的回答グループが過半数を超えており、さらに平成 28 年の調査では肯定回答のポイントすべてが前回調査を上回っています。

質 問	グループ	H20 小学 6 年		H23 小学 5 年		H28 小学 5 年	
① 自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	266 人	44%	355 人	58%	373 人	59%
	否定的回答グループ	329 人	54%	248 人	41%	250 人	40%
② 自分は人から必要とされている	肯定的回答グループ	262 人	43%	327 人	54%	379 人	60%
	否定的回答グループ	329 人	54%	271 人	44%	241 人	38%
③ 自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	250 人	41%	310 人	51%	373 人	59%
	否定的回答グループ	349 人	57%	289 人	47%	249 人	40%
④ 自分には何かができる	肯定的回答グループ	467 人	77%	476 人	78%	529 人	84%
	否定的回答グループ	135 人	22%	129 人	21%	95 人	15%
⑤ 自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	440 人	72%	463 人	76%	515 人	82%
	否定的回答グループ	164 人	27%	144 人	24%	110 人	17%

⑥ 自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	244人	40%	304人	50%	336人	53%
	否定的回答グループ	346人	57%	296人	49%	280人	44%
⑦ だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	505人	83%	531人	87%	570人	91%
	否定的回答グループ	96人	16%	73人	12%	56人	9%
⑧ 社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	504人	83%	517人	85%	539人	86%
	否定的回答グループ	99人	16%	91人	15%	87人	14%

【表 2-3】 子どもの自己肯定感などに関する調査の H20・H23・H28 回答結果比較】

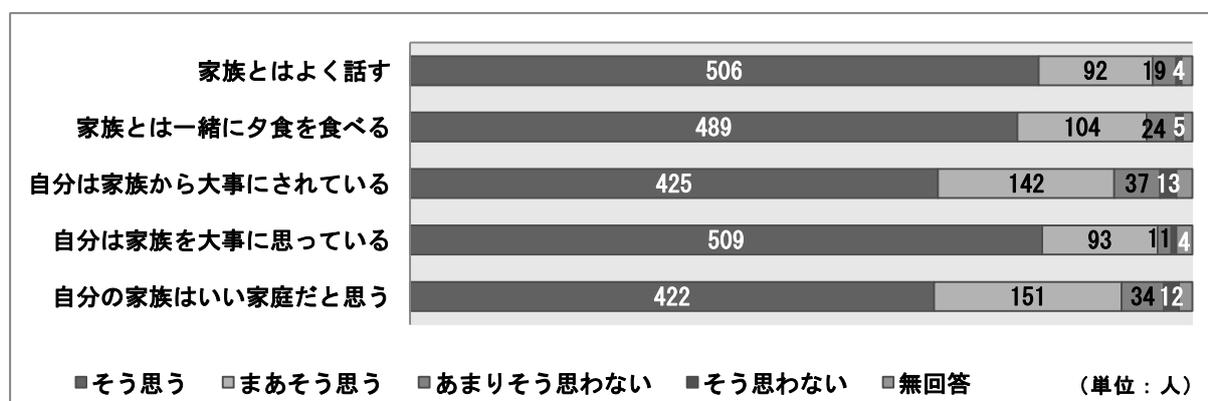
2. 子どもと家庭；居場所と自分を大切に思ってくれる人の存在

(1) 基本的な存在としての親との関係

(問3)「①自分の家庭についてどう思うか」の設問で、「家族とはよく話す」と回答する割合が、「**そう思う**」506人(80%)、「**まあそう思う**」92人(15%)を合わせると598人(95%)、「②家族とは一緒に夕食を食べる」と回答する割合についても、「**そう思う**」489人(78%)、「**まあそう思う**」104人(17%)を合わせると593人(94%)という値になり、家族とのコミュニケーションの場が、家庭生活の中で確保されている割合は非常に高くなっています。

家庭生活に対する子どもからの評価もまた高い割合を示し、「⑤自分の家庭はいい家庭だと思う」という項目に「**そう思う**」422人(67%)「**まあそう思う**」151人(24%)と回答する割合が合わせて573人(91%)になっています。家族との人間関係において、「③自分は家族から大切にされている」という項目に「**そう思う**」425人(67%)「**まあそう思う**」142人(23%)と回答する割合が合わせて567人(90%)、「④自分は家族を大切に思っている」という項目に「**そう思う**」509人(81%)「**まあそう思う**」93人(15%)と回答する割合が合わせて602人(96%)と、家庭や家族に関する設問項目に対しては、いずれも肯定的な回答が90%前後を占めています。小学生にとって、家庭は日常生活の中で大きな位置を占めていることがわかります。

平成23年の調査でも、この設問に対する肯定的な回答は90%前後で、前回の調査とほぼ同様の結果でした。

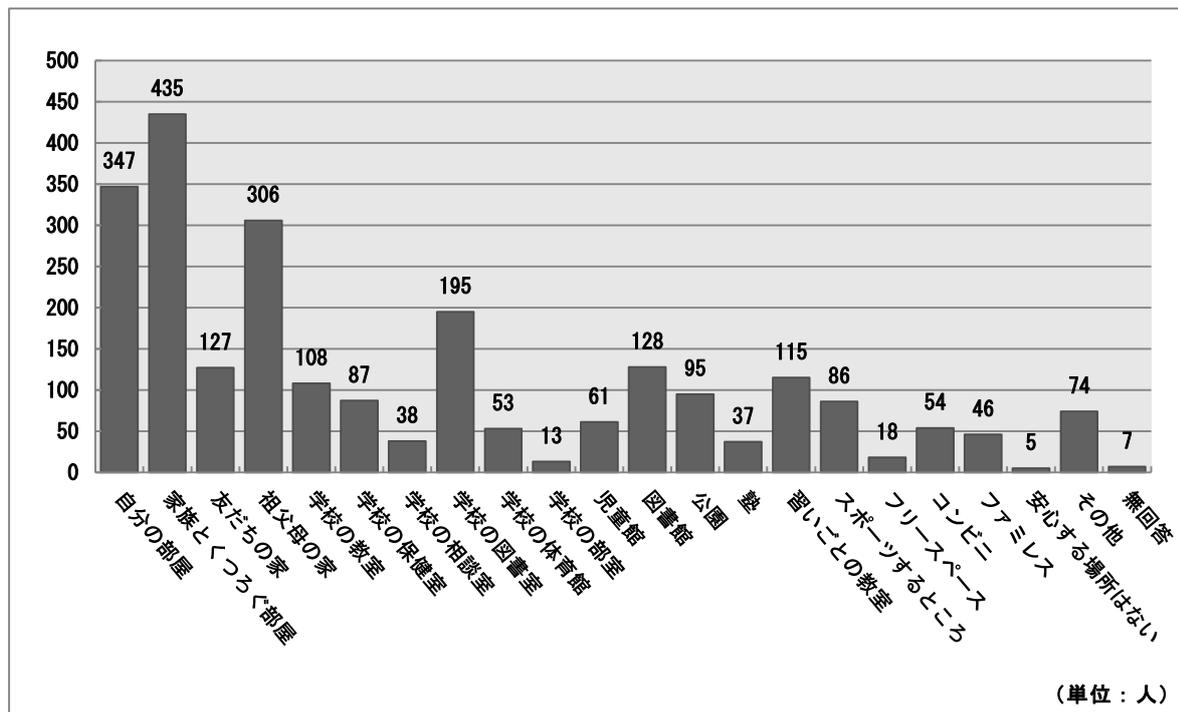


【図3】 自分の家庭について

(2) 子どもが安心していられる場所

(問4)「あなたがホッとでき、安心していられる場所はどこか」(複数回答)の設問に最も多く回答があったのは、「家族と一緒にくつろぐ部屋」435人(69%)、次いで「自分の部屋」347人(55%)、「祖父母の家」306人(49%)、「学校の図書館」195人(31%)、と続きました。その他欄の自由記述に74件の回答があり、主な内容は「寝室(13件)」「すみっこ、せまいところ(7件)」「トイレ(7件)」「風呂(4件)」などの意見がありました。

この回答には一部に男女差がありました。「公園」は、男子61人、女子33人となっています。



【図4】ホッとでき、安心していられる場所

これらの場所で子どもとかかわりをもつことが予想される、家族(親、兄弟姉妹、祖父母)や友だちに関しては、後述の(問7)「自分を大切に思ってくれる人」は親577人(92%)、祖父母442人(70%)、友だち341人(54%)、兄弟姉妹330人(52%)と回答があったことを考え合わせると、子どもにとって、「自分を大切に思ってもらえる」と思える人がいることが、ホッとでき安心していられる場所の大切な条件であると言えます。

前回調査と上位5つを比較すると、1番目~3番目の順位は変わりませんでした。が、「習い事の教室」と「図書館」の順位が入れ替わりました。

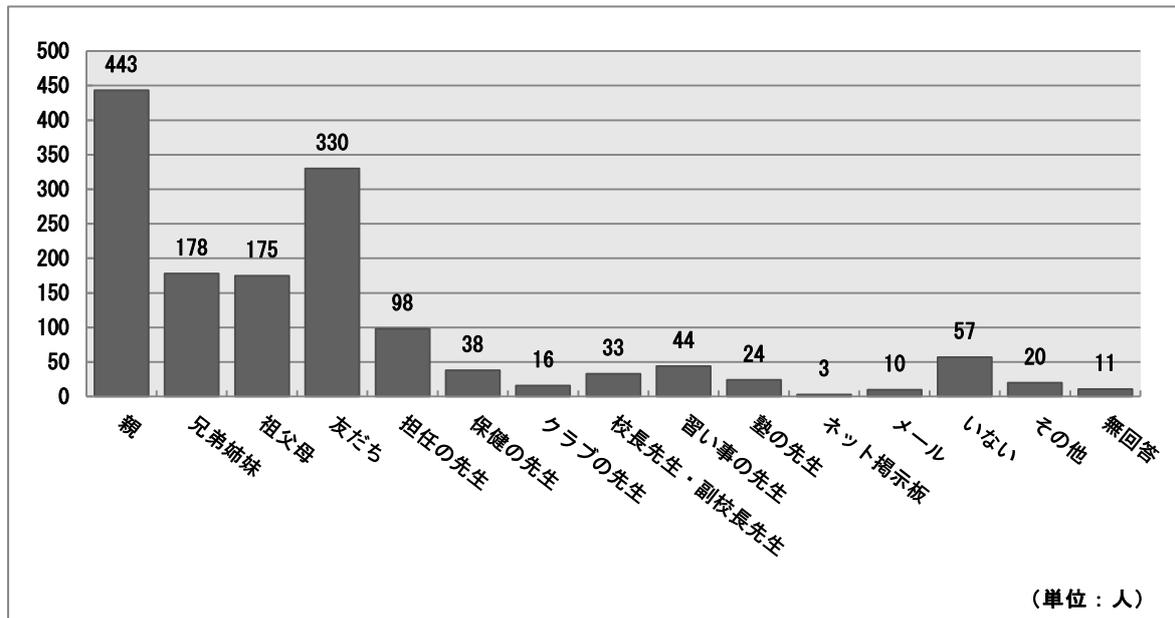
(3) 信頼できる人について

(問5)「なやみを何でも話せる人はだれか」(複数回答)に対しては「親」443人(70%)、「友だち」330人(52%)、「兄弟姉妹」178人(28%)、「祖父母」175人(28%)という結果になっています。また、学校関係者の「担任・副担任などの先生」「保健室の先生」「クラブの顧問の先生」「校長先生・副校長先生」を合わせると185人(29%)になります。また、「何でも話せる人はいない」は、57人(9%)でした。

その他の回答では20件の回答があり、「親戚(7件)」「なやみはない(3件)」「ペット(1

件)」などの意見がありました。

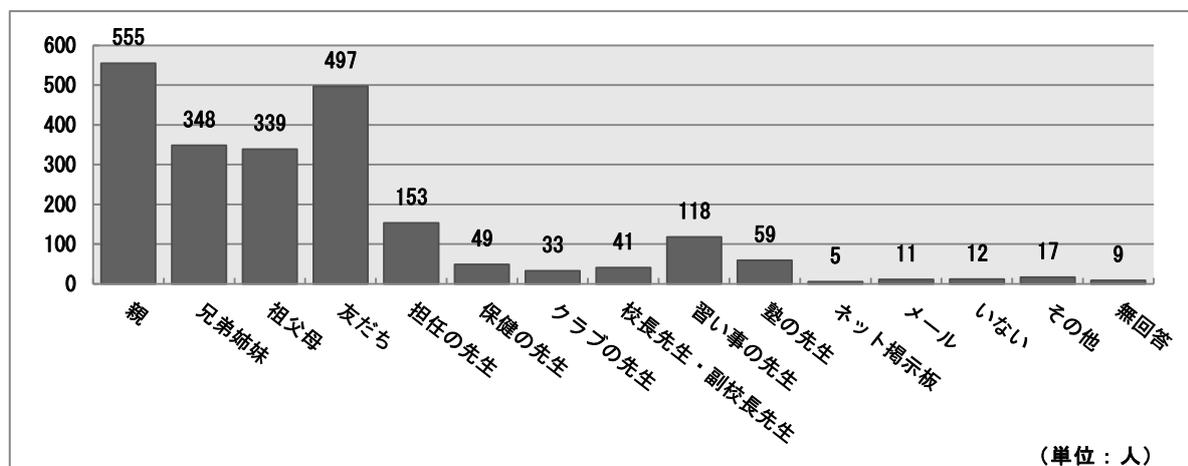
この回答の一部に男女差がありました。「友だち」と回答したのは女子 189 人（61%）に対し、男子 134 人（43%）。その他の項目は男女ほぼ同数でした。



【図5】悩みを話せる人

(問6)「楽しかったことなどを何でも話せる人はだれか」(複数回答)に対しては、最も多いのが「親」555人(88%)、次が「友だち」497人(79%)、以下「兄弟姉妹」348人(55%)、「祖父母」339人(54%)と続き、いずれも(問5)「なやみを何でも話せる人はだれか」への回答に比べ高い値を示しています。「何でも話せる人はいない」を選んだ児童は12人(2%)と、(問5)に比べ大変少なくなっています。また、学校関係者の「担任・副担任などの先生」「保健室の先生」「クラブの顧問の先生」「校長先生・副校長先生」を合わせると276人(44%)になります。その他の回答では17の回答があり、「親戚(12件)」、「ペット(1件)」、「近所の人(1件)」などの意見がありました。

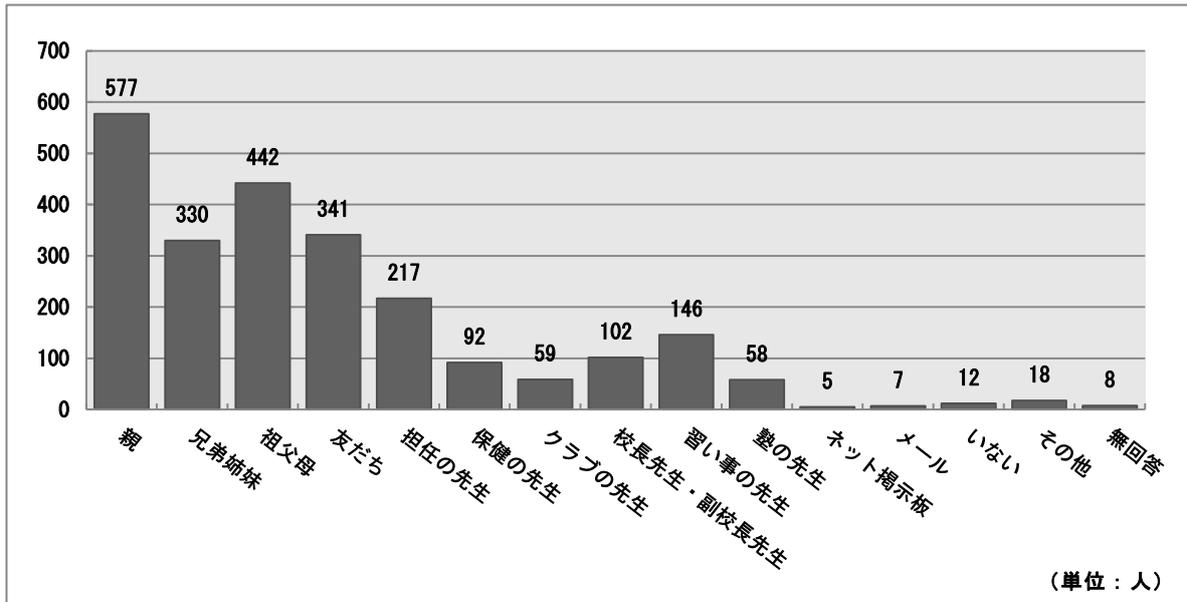
また前回調査と上位5つを比較すると1・2・5番目の順位は変わりませんでした。が、「兄弟姉妹」、「祖父母」の順位が入れ替わりました。



【図6】楽しかったことを話せる人

(問7)「あなたを大切に思ってくれていると思える人はだれか」(複数回答)の設問に「親」を選んだ児童は、一番多く577人(92%)。「祖父母」442人(70%)、「友だち」341人(54%)、「兄弟姉妹」330人(52%)がこれに続いています。小学生にとって親とは、自分を大切に思ってくれているという信頼感を抱ける、基本的な存在であることがうかがえます。家族(祖父母、兄弟姉妹等)に対しても同様に、関係の深さに裏付けられた信頼感を持っているのがわかります。その他の回答には18件の回答があり「親戚(7件)」「近所の人(1件)」などの意見がありました。

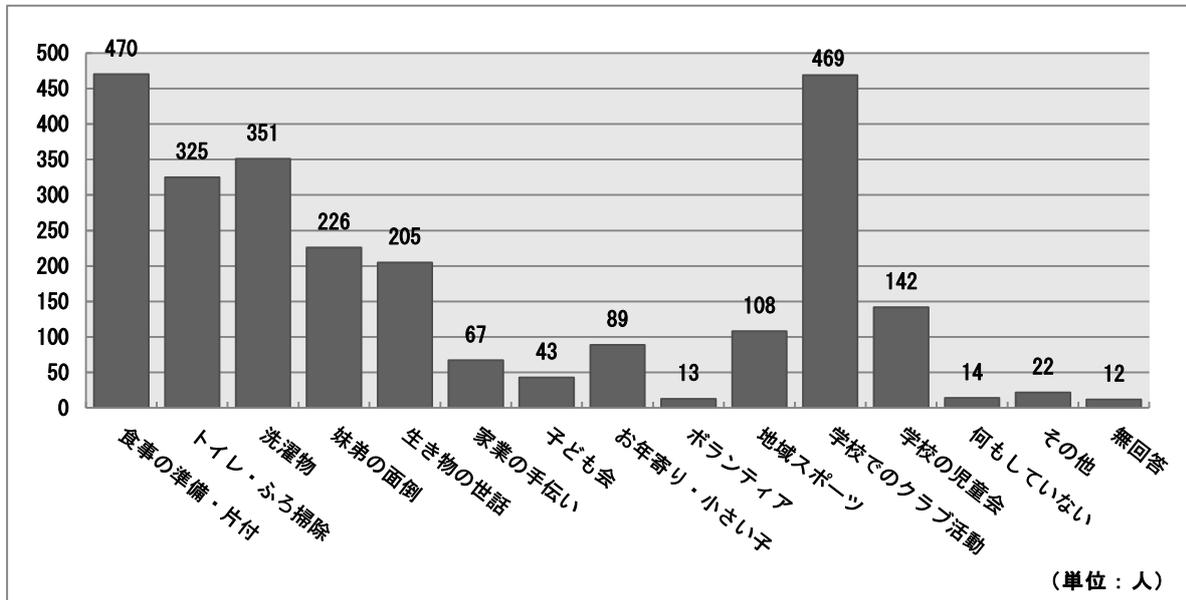
また、前回の調査と上位5つの項目について比べたところ、順位の変動はありませんでした。



【図7】自分を大切に思ってくれる人

(4) 家庭・学校・地域での役割について

(問8)「あなたは次のようなことをやっているか」(複数回答)の設問では、回答の多い方から順に「食事の準備や後片付け」470人(75%)、「学校でのクラブ活動」469人(74%)、「洗濯物」351人(56%)、「トイレやおふろの掃除」325人(52%)、「妹や弟の面倒をみる」226人(36%)、「生きものの世話」205人(33%)と続いています。



【図8】家庭・学校・地域で、になっている役割

クラブ活動を除くと、児童が担っている役割の主なものは、家庭内での手伝いであることがわかります。

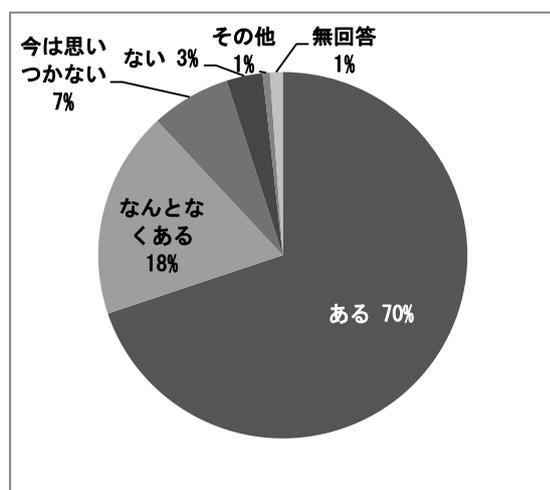
この回答の一部に男女差が見られました。「洗濯物」女子204人(66%)、男子139人(45%)と女子の方が多かった一方、「地域スポーツクラブなどへの参加」では男子68人(22%)、女子36人(12%)と男子が多い結果になっています。

また、前回の調査と上位5つを比較すると、1位・2位の順位は変わりませんが、3位「トイレ・ふろ掃除」から「洗濯物」へ、4位「洗濯物」から「トイレ・ふろ掃除」へ、5位「生き物の世話」から「妹弟の手伝い」へ順位の変動がありました。

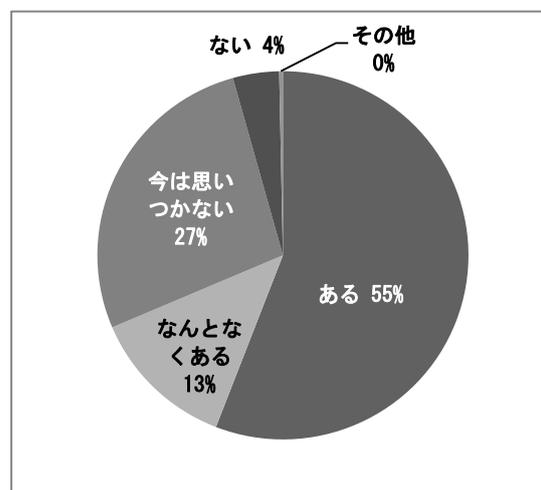
3. 「将来の夢」や「苦しくても頑張ったこと」

（問9）「将来やってみたいことややりたい職業など、自分なりの夢はあるか」という設問で、「ある」「なんとなくある」と答えた児童の割合は555人(88%)でした。

（問10）「苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験はあるか」という設問に、「ある」「なんとなくある」と答えた児童の割合は426人(68%)でした。



【図9】 将来の夢



【図10】 頑張った経験

また、この設問では（問10-1）「それはどんなことか」という記述回答欄を設けたところ、347件の回答がありました。主な内容ごとにまとめ、件数をカウントした結果が下表【表10-1】です。「苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験」として、スポーツ・運動と学校行事が特に多くなっています。

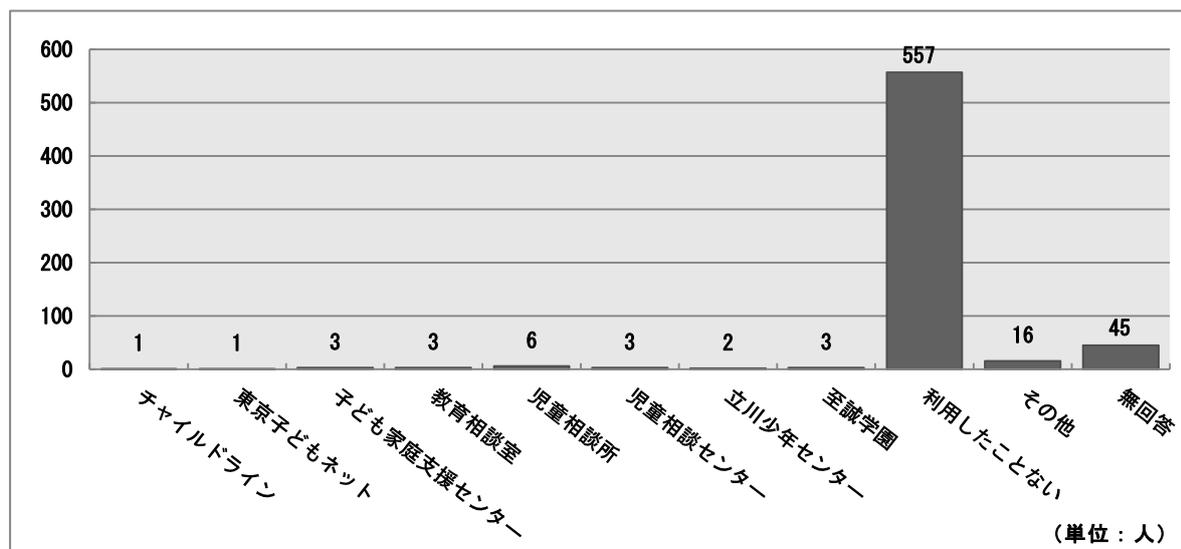
問10-1 がんばったこと 自由記述		H28	H23（参考）
1	スポーツ、運動	157件（25%）	162件（26%）
2	学校行事（運動会、八ヶ岳ハイキングなど）	68件（11%）	88件（14%）
3	勉強（学校、塾、テストなど）	35件（6%）	47件（8%）
4	習い事（文化系）	27件（4%）	36件（6%）
5	家庭の手伝い、地域活動	23件（4%）	9件（1%）
6	趣味、遊び	19件（3%）	15件（2%）
7	いじめ、けんか	6件（1%）	13件（2%）
8	病気、けが（自分、家族）	5件（1%）	9件（1%）
9	自己の目標（すききらいをなくすなど）	4件（1%）	13件（2%）
10	友人関係、対人関係	3件（1%）	9件（1%）
合計		347件（55%）	401件（65%）

【表10-1】「苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験」具体例

4. 相談機関などについての認識や意見

(問 1 1)「立川市の子どものための相談機関として利用したことがあるのはどれか」(複数回答)という設問に対しては、557人(88%)の児童が「利用したことはない」と回答しています。一方、利用したことのある回答の内訳は「児童相談所」が6件、「子ども家庭支援センター」が3件、「至誠学園」が3件など、全部で38件、18人が相談したことがあると回答しました。「その他」の回答では「児童館」「学校の相談室」の名称が記載されていました。

前回の調査との比較では、平成23年調査では「利用したことはない」の回答が533人(88%)、利用したことがあるという回答数は22件、12人でした。



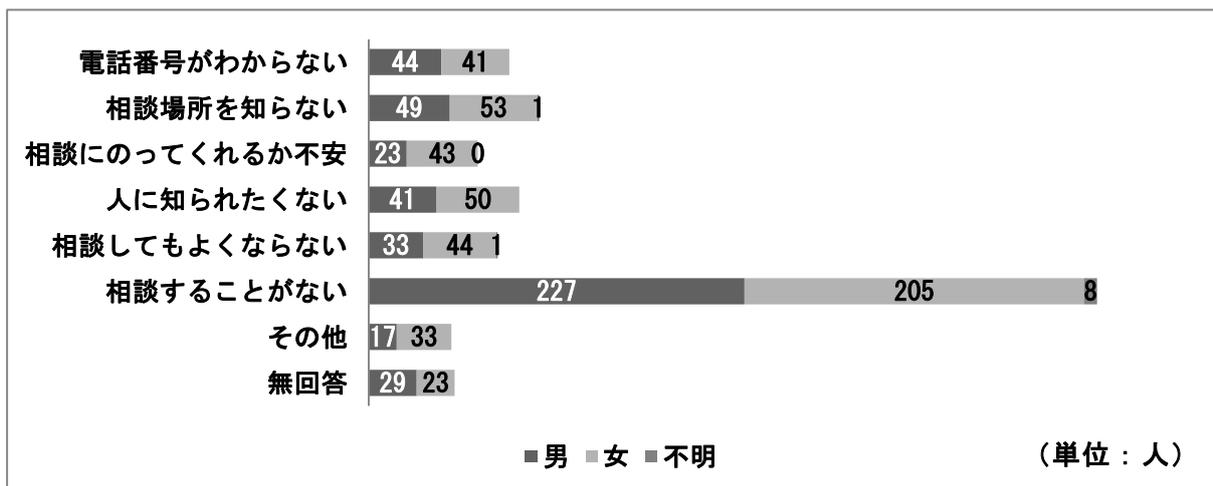
【図11】利用したことのある相談機関

相談機関は、必要とされる機会や出来事がなく、子どもたちがのびのびと生活できていればそれが一番いいことです。しかし、実際にだれかに相談したい、といった局面で、そのアクセスを阻む要因があるなら、それを改善しなければなりません。

そこで、(問 11-1)では、上記の設問に「利用したことはない」と答えた人に対して、「それはなぜですか」(複数回答)と聞いてみました。

もっとも多かった回答は「特に相談することがないから」で、440人(70%)です。それ以外の選択肢の回答率を見ると、「相談の場所を知らないから」103人(16%)、「電話番号が分からないから」85人(13%)など。いざというときのアクセス先を知らない児童がいることがわかります。また、「人に知られたくない」91人(10%)、「相談してもよくなるらない」78人(12%)、「相談にのってくれるか不安」66人(10%)など、相談機関への信頼感がもてないために相談できない児童がいることもわかります。この傾向は、女子に顕著です。

その他の意見は50件あり、「家族や友達など身近に相談できる人がいる(23件)」、「相談したくない(5件)」などの意見がありました。



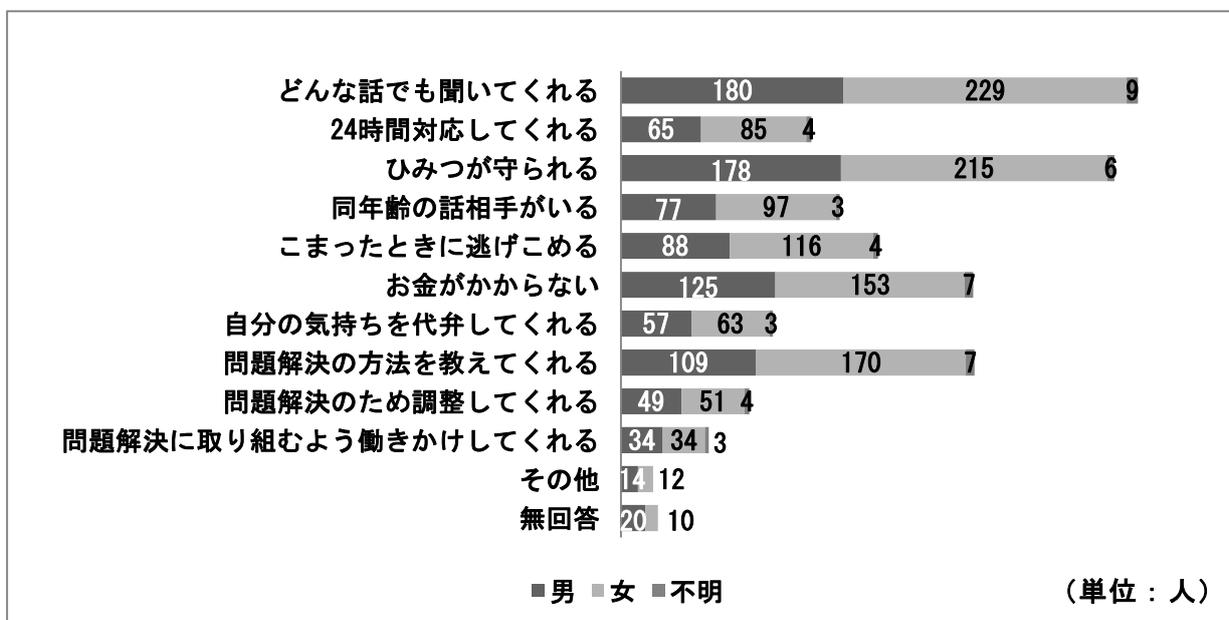
【図 11-1】 利用しない理由 男女別

(問 1 2)「どんなところなら相談しようと思うか」(複数回答)という設問への回答は、以下のようになっています。

多かった回答は「どんな話でも聞いて受けとめてくれるところ」418人(66%)、「ひみつが守られるところ」401人(64%)、「お金(電話代ほか)がかからないところ」283人(45%)、「問題の解決方法を教えてくれるところ」282人(45%)など、さらに「こまったときに、かけこめるところ、逃げ込めるところ」208人(33%)、「自分と年齢の近い話し相手がいるところ」177人(28%)、「24時間いつでも電話などで対応してくれるところ」154人(24%)など、相談機関に対する意見や要望は多く、多様であることがわかります。

ほとんどの選択肢について女子の回答数が男子を上回っており、相談機関自体に対する関心については、女子は男子より高いことがうかがえます。その他の意見には26件あり、「家族や友だちに相談できるからいらない(5件)」、「相談したくない(4件)」、「信頼できるところ(2件)」などの意見がありました。

また、前回調査と上位5つを比較すると、順位の変動はありませんでした。



【図 1 2】 どんなところなら相談するか 男女別

5. 「子どもの権利」の認識と社会参加する機会

(1) 子どもの権利条約の認知度

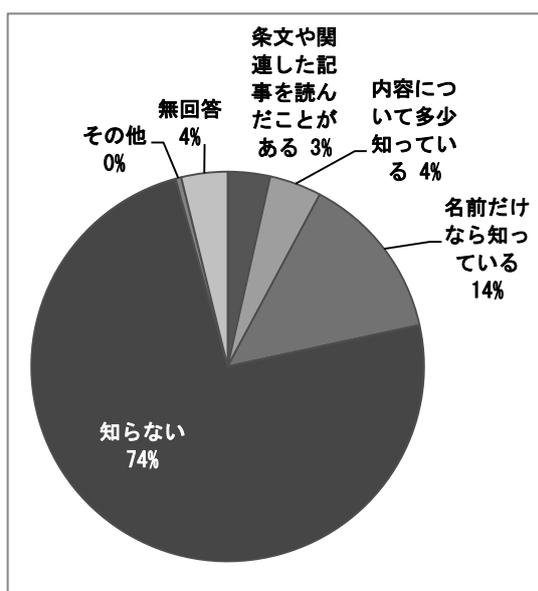
(問13) 「子どもの権利条約を知っていますか」の問いに対し、認知度は「条文や関連した記事を読んだことがある」22人(3%)、「内容について多少知っている」27人(4%)、「名前だけは知っている」87人(14%)を合わせて136人(21%)です。

平成23年調査では、この3つのグループの回答を合計すると30%で、今回の調査の方が9ポイント以上少なくなっています。

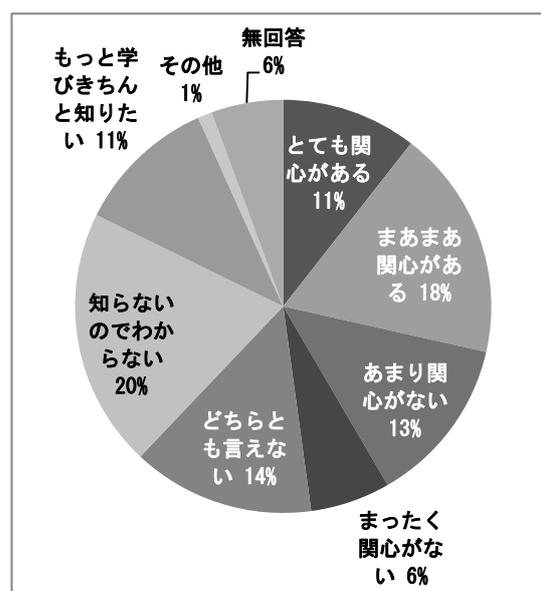
(2) 子どもの権利(人権)に対する関心

(問14) 「子どもの権利(人権)について、関心がありますか」の問いに対し、「とても関心がある」「まあまあ関心がある」「もっと学び、きちんと知りたい」の関心があるグループの合計が248人(40%)、「どちらとも言えない」「知らないのでわからない」の中庸グループが216人(34%)、「あまり関心がない」「まったく関心がない」の無関心グループ合計が121人(19%)と、関心があるグループが一番多い結果となっています。

前回調査も、関心があるグループが255人(42%)で一番高く、2番目が217人(36%)の中庸グループで、3番目は、無関心グループで104人(17%)の結果でした。



【図13】子どもの権利条約の認知度



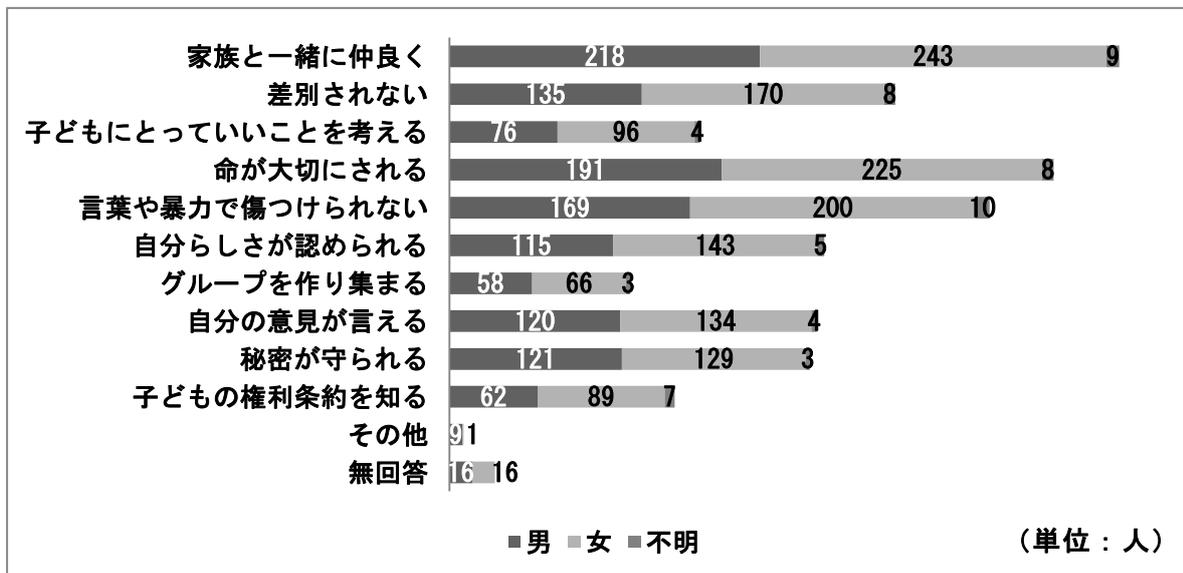
【図14】子どもの権利(人権)に対する関心

(3) 子どもの考える「子どもの権利(人権)」の内容

(問15)「子どもの権利(人権)として、どんなことが特に大切だと思うか」(複数回答)の設問に対して、もっとも多かった回答は「子どもが家族と仲良く一緒に過ごす時間を持つこと」が470人(75%)、次いで「子どもの命が大切にされること」424人(67%)、「子どもが暴力や言葉で傷つけられないこと」379人(60%)、「子どもが、障害のあるなし、人種や言葉や信仰の違い、経済的な理由などによって差別されないこと」313人(50%)、「自分らしさが認められる」263人(42%)などが続いています。

今回の調査では、ほとんどの選択肢について、その項目を選んだ女子の数が、男子の数を上回っています

また、前回調査と上位5つを比較すると、「自分らしさが認められる」、「自分の意見が言える」、この2項目の順位が逆転しました。

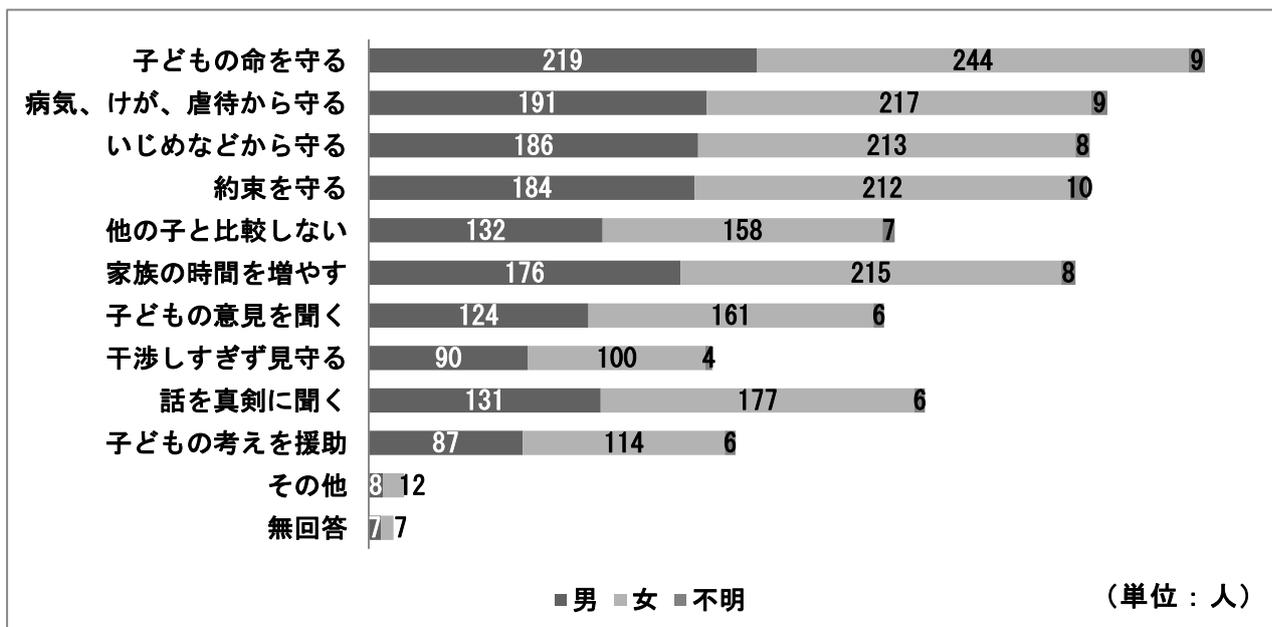


【図15】子どもの権利(人権)として大切なこと 男女別

(問16)「大人に心がけてほしいのはどんなことか」(複数回答)の設問に対して、もっとも多かった回答は「子どもの命を守ること」472人(75%)、次いで「病気、けが、虐待などから守ること」417人(66%)、「いじめや、まわりから心や体を傷つけられるようなことから子どもを守ること」407人(65%)、「子どもとの約束を守ること」406人(64%)、「家族の時間を増やすこと」399人(63%)、などが続いています。

この設問に対する回答でも、男女差が見られます。すべての項目において男子より女子の方が多く回答しています。

前回調査と上位5つを比較すると、5番目の順位が「病気、けが、虐待などから守ること」から「自分らしさが認められること」に変わりました。

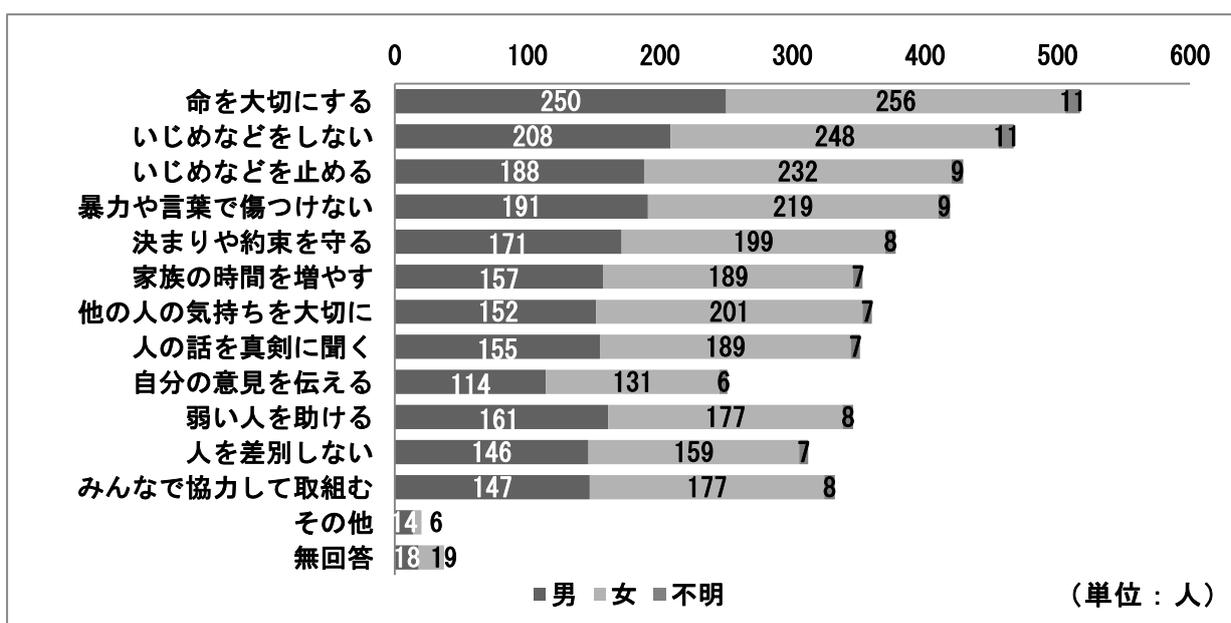


【図16】大人に心がけてほしいこと 男女別

(問17)「子どもの権利(人権)を尊重し合うために、子ども自身も社会の一員として果たすべき義務や責任はどんなことか」(複数回答)に対して、もっとも多かった回答は「自分の命、ほかの人の命を大切にすること」517人(82%)、次いで「いじめや人がいやがることをしないこと」467人(74%)、「いじめや人がいやがることをやっている人を見たら止めること」429人(68%)、「他の人に暴力を振るったり、心を傷つけるひどい言葉を投げつけたりしないこと」419人(67%)、「決まりや約束事をお互いに守ること」378人(60%)などが続いています。

この設問に対する回答でも、女子の数は男子の数を上回っていました。

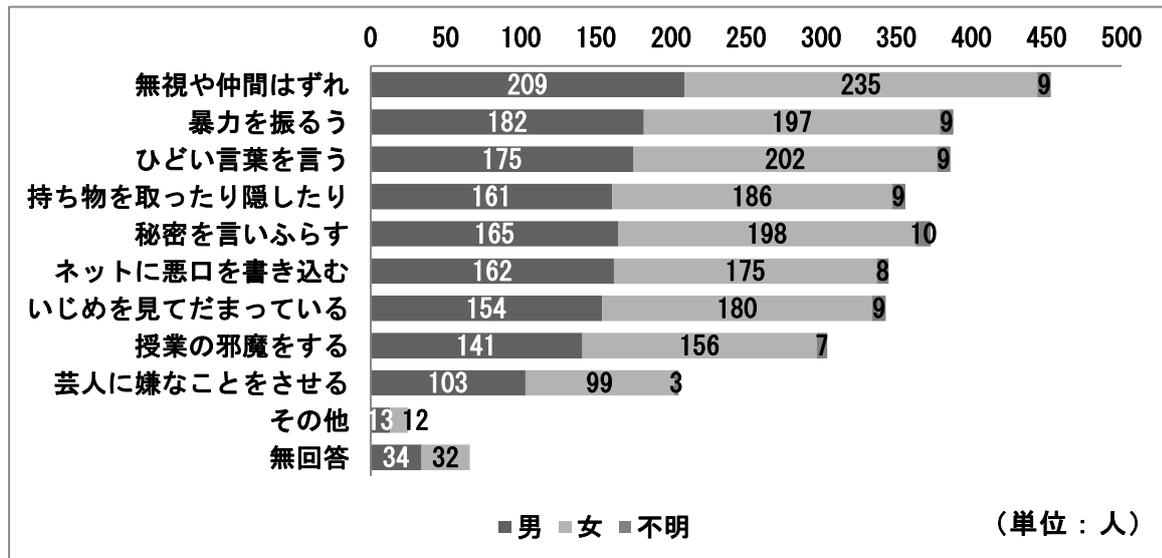
また、前回調査と上位5つを比較すると、上位4つの選択肢については同じ順番でしたが、5番目の順位が「家族の時間を増やす」から「決まりや約束事をお互いに守ること」に変わりました。



【図17】子どもの果たすべきこと 男女別

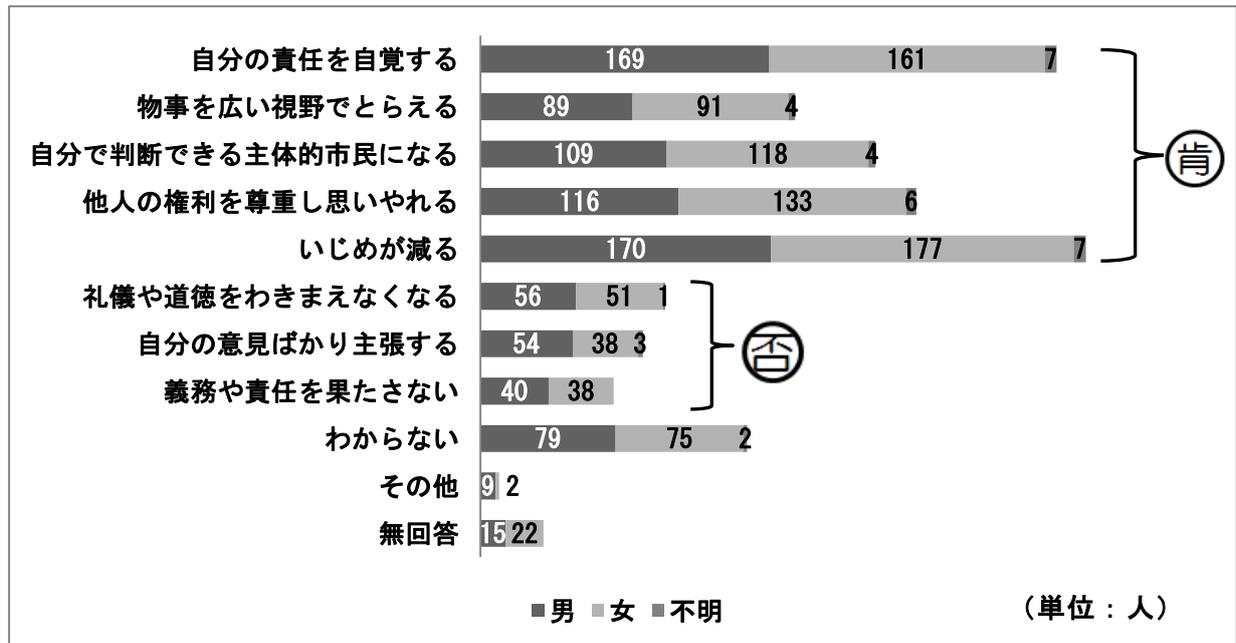
(問18)「他の人の権利(人権)を大切にしていなかったり、侵害していると感じるのはどれか」(複数回答)の設問に対しては、もっとも多かった回答は「特定の人を無視したり、仲間はずれにする」453人(72%)、次いで「他の人に暴力をふるう」388人(62%)、「他の人の心を傷つけるようなひどい言葉を使う」386人(61%)、「他の人が秘密にしていることを言いふらす」373人(59%)、「他の人の持ち物やお金を、取ったり隠したりする」356人(57%)、などが続いています。

また、上位5つの選択肢について前回調査と比較すると、今回の2番目「他の人に暴力をふるう」と3番目「他の人の心を傷つけるようなひどい言葉を使う」の順位が入れ替わりました。今回の設問に対する回答でも、女子の数は男子の数を上回っていました。

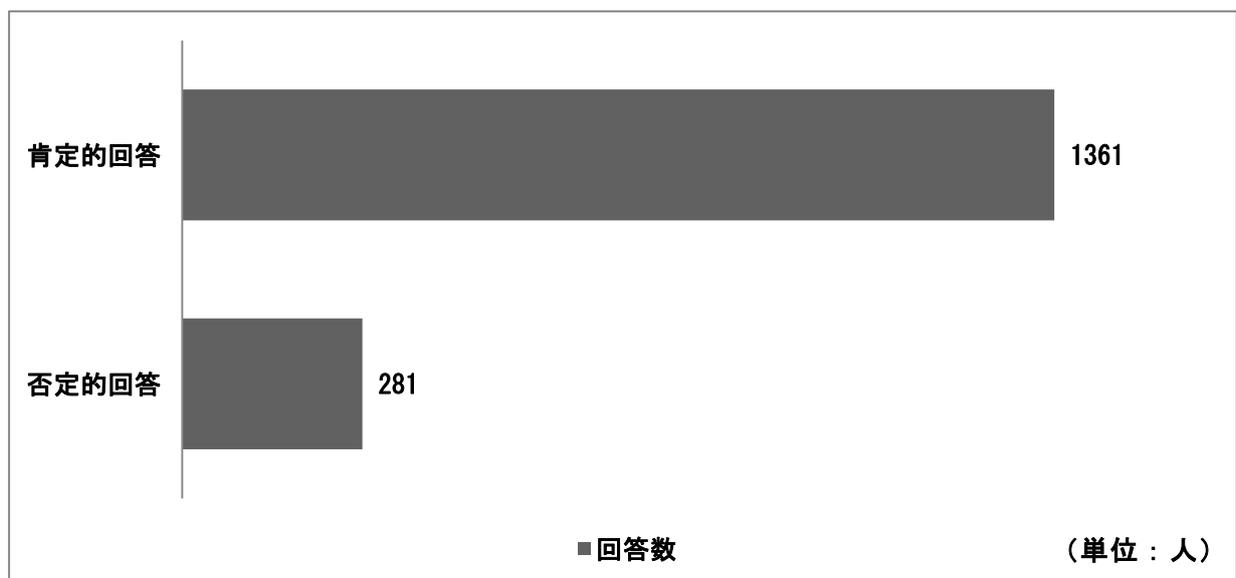


【図18】人権侵害と感ずること 男女別

(問19)「子どもの権利(人権)についてみんなが知るようになると、どんな効果や影響があるか」(複数回答)の設問に対する回答で、肯定的な回答は「いじめが減る」354人(56%)、次いで「子どもが自分自身の責任を自覚するようになる」337人(53%)、「他人の権利を尊重し、思いやりの心をもてるようになる」255人(40%)、「自分で考え自分で判断できる主体的な市民が育つ」231人(37%)「物事を広い視野でとらえることができるようになる」184人(29%)でした。この後に「わからない」156人(25%)、また、否定的なとらえ方として、「子どもが礼儀や道徳をわきまえなくなる」108人(17%)、「子どもが自分の意見ばかり主張するようになる」95人(15%)、「子どもが義務や責任を果たさなくなる」78人(12%)と続いています。子どもの権利をみんなが知ったときの効果や影響は肯定的に捉える回答が多い結果になっています。



【図19】子どもの権利(人権)周知の効果や影響



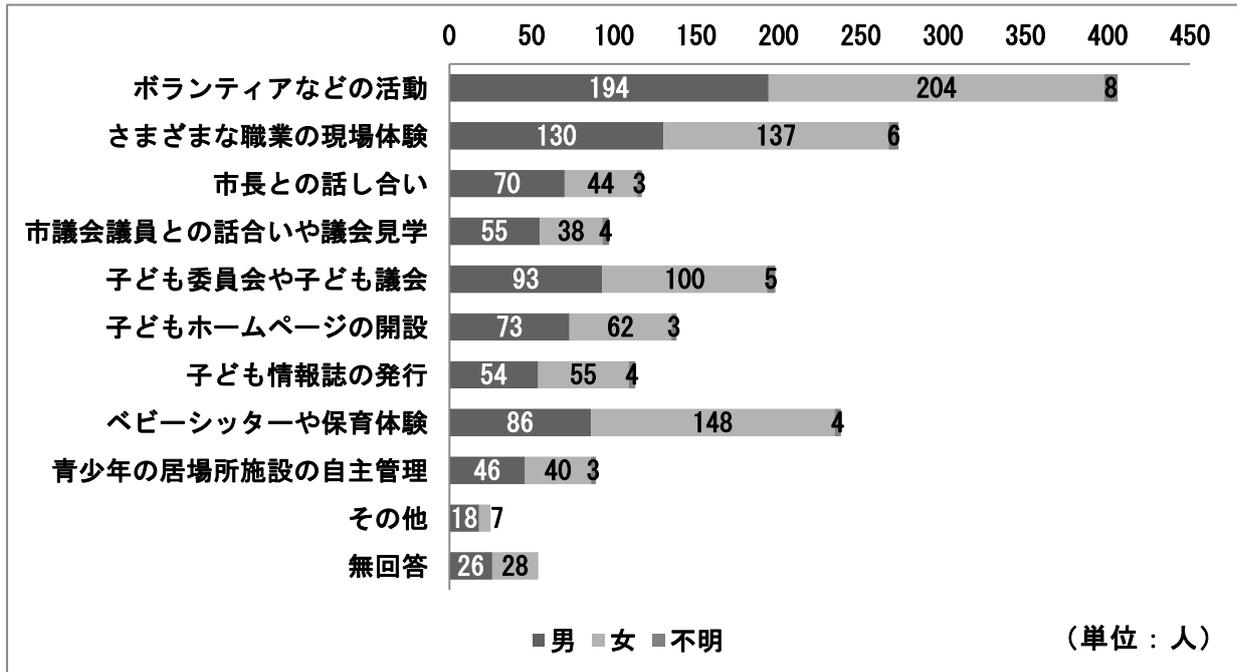
【図19-1】子どもの権利(人権)周知の効果や影響

(4) 子どもが社会に参加する機会

(問20)「子どもが社会に参加する機会として、どのような活動がいいと思うか」(複数回答)の設問に対しては、もっとも多かった回答は「ボランティアなどの活動」全体で406人(64%)、次いで「様々な職業の現場体験」273人(43%)、「ベビーシッターや保育など小さい子どもと遊ぶ体験」238人(38%)、「子ども委員会や子ども議会」198人(31%)、「子どもホームページの開設」138人(22%)の順でした。

また、「その他」への記述では25件の回答があり、「わからない(10件)」「ない(3件)」「こまったときのかいぎ(1件)」などがありました。

前回調査と上位5つを比較すると順位の変動はありませんでした。



【図20】子どもの社会参加の機会 男女別

6. 自由記述

自由記述は、質問紙の最後に、設問なしで自由に記述のあったもののまとめです。書かれた内容は様々であり、おおまかに以下の5つのカテゴリーに分類し全記述を掲載しました。

ない（自由意見はない、悩みはない）

記述数 185

「特にありません」「なし」「みんな友達や先生がなやみを聞いてくれたりするので、とくに心配なことや悩みはありません」「今の生活でまんぞくしている」など

親や家族について

記述数 14

- もっと家族と一緒にいる時間が欲しい
- 強制的に友達と行かされる
- 自分が学校で傷ついていることを親に何回も何回も話しているのに軽くみられていること
- みんなと離れたくないです。わたしはひっこしちゃうので、はなれたくない。でもしょうがないとおもいます。
- おやがぼくのお金をとっている。かえしてといってもあなたがわたしにあずけたでしょ、ごめんなさい、といいつつぼくはおもいました。あずかるからこれをつかいたいときあげるとゆったくせにとおもいました
- 父親とおばあちゃんの親子ゲンカが多い
- 親のりこんがいやだ
- 弟がちょっとうざい。それいがいはだいじょうぶ
- 家族といる時間を増やしてほしい
- 習い事で1人がうるさくて先生の話が聞こえず怒られたことがあるので、うるさくした人も注意してほしいです。弟がしたことなのに自分がおこられたことがなやみです。
- もっと家族と一緒にいる時間が欲しい
- いもうとをなくっちゃだめといってなくっていいのか
- 大人は子どもになぐったりするのでそれをなくしてほしい。
- ままは、まいにちはなすとおこるのがなやんでる（あさはおこらないけどしごとがかえってきたらおこる）

自分なりの考え・思い・願い

記述数 49

- 子供にやさしくする。
- いじめをへらしてほしい
- 安心してみんなが元気でぼうげんなどをしないこと
- なにかこまったことがあったら親に相談すること
- いきいきと過ごせるようにしてほしい
- さべつをせずなかまはずれにしない
- ボランティア活動でしていることを広める
- 悪口を言わないでほしい 勝手に何も言わずにきめないでほしい
- ユニークさがとおるような、社会にしてほしい。ファッションかんれんが有名な地にして

ほしい。自分がやりたいことをひていされてしまう。少し自由な感じが足りないと思う。立川や東京には子どもたちが困ったときの相談ができるところがたくさんあります。それはとてもいいと思います。ネットなどの問題をかいけつするのは、多い方がいいんじゃないかと思いました

- 友達を作るのはいいことだとおもうけどこれがいじめにつながるかもしれないからみんなすなおな気持ちを持った方がいいと思う
- ねぶそくにならないようにしてほしい。
- 生まれてきて良かったです
- 成人式が終わったら早くひとりぐらしをする
- みんなと仲良く優しく一緒にすごす
- しょうがいを持っている人の学校を作ったほうがいいと思います。
- 自分はひとから必要とされていないと思うのも一つの考え方だと思います
- 九九ができなかつたりかんじが苦手だからってわけないでほしい
- 公園が上の学年に取られて遊べなくなっている 学校で言われたことを守らずに、公園で遊んでいる
- 自分は人によくいらまれる⇒いやだと思っている
- 人のことを顔や体ではんだんしからかつたりしないようにしてほしい
- みんなのためになるべんりな道具
- 大人や子供がもっと協力ができるようなイベントをたくさんやってほしい。
- みんな協力でできおたがいにたすけ合うことが大切だと思う
- こまっているひとをたすける
- いじめのない世界
- ぼうりょく、なぐりあいはしたくない
- 悪口を言わない
- ある人には遊んでくれるのにある人には遊んでくれないこと
- しんじてたのにうらぎったりうそついたりすることがいや
- いみのわからないことをかかないでください（アンケート）尊重のいみってなんですか。なんでこのアンケートをするんですか
- 障がい者をバカにすると私はとてもおこると思います。でも怒りたくないなので、差別をやめてほしいです。
- 子どもに悩み事があったら大人がすぐに気づいてたすけてあげる
- 遊んでいる時に自由に遊んでいるのに怒らないでほしい
- 子供にかかわる大変なルールを大人だけではなく子どもの意見を聞いて変えていってほしい
- わるぐちがいやだ
- あそぶときに人のことを考えてあそんでほしい！！
- いま、あなたが安心して自分らしくいきいきとすごせています。
- 世界からせんそうを抹消したい
- 暴力や人をむししてもらいたくない
- ストレスがたまっている
- 消費税を安くしてください
- しょうひぜいだうん、サンタからのプレゼントぞうりょう
- お母さんが仕事がいそがしいから、休みを土日でもいいから休みを土日ぐらいあったらいなとおもいます。ねあげをしないといいなとおもいます

- もっと子どもが社会に役立ってほしい。
- 海外の人とかかわりたくない
- しょうひぜいがたかすぎる。
- 物を買う時に金がかかりすぎる
- おこづかいほしい
- 暴力反対

公共施設や世の中のこと（公共施設など）

記述数 30

- いやなことを遊んだりして忘れる場所
- もっと無りょうで入れるたのしい公園を作ってほしい
- 無料で入れる体育館やグラウンドなど
- 習い事の時立川どおりからはずれるととてもくらくて、とてもこわいのもっとほかの道もあかるくしてほしい、ろじとかにしんごうをもっとつけてほしい
- よく姉に「食べすぎ」といわれてケンカになったりして、食べ物ケンカが多い 立川市は公園や学校くらいでしか外で遊べないから飽きないくらい楽しい遊び場が欲しい
- もっともっと子どもがあそべるところ・・・マンションの下の公園で遊んでいると大人がたばこをすったり、うるさいともんくをいわれるからなくしたい ボールきんしをなくしたい
- もうすこしはななどそういったしぜんをふやしていったりしたい
- 近くに児童館が欲しいです。ほかにはありません。
- めいわくがかからずたのしくあそべるとこ
- 学校の校庭のしばをふやしてほしい
- サッカーボールが使える場所をもっとあったらいいな
- 子どもの遊び場所ルームがあればいいと思う
- 近くに、遊園地など、友達だけで、あそべるような、パークランドがあったりいいと思う
- ゆうぐのたくさんある公園を作ってもらいたい。
- みんなが、同じ人だけじゃなくあまり遊んだことのない人とも遊べるところ
- じどうかんの使う時間を守るようにしてほしい
- 道にゴミを捨てない所があればいいなと思う。もっと道をきれいにしてほしい
- 図書館よりも大きくて小説・マンガがたくさんあるところ
- 団地で犬をかってよくしてほしい
- 外にゴミ箱をふやしてほしい
- 立川市にもっと緑の自然が増えてほしい。人間のためだけに森などを減らして、動物のすこしやすいかんきょうをくすすのはいけないと思う
- 私がじゅくでかえりがおそくなって夜、くらいときにこわいから、夜 8 時とか 9 時とかにも立川駅周辺をみまわりしたり、もしこわい目にあったりしたらたすけてほしいです
- 化学が発展して空を飛ぶ車を作ってほしいです
- もっと立川が平和になってほしい
- たまあに公園などみんなつかえる場所を中学生や年がうえだからって 1 人じめなどをする人がいる
- 口だけでなく行動もしてほしい
- いじめやはんざいがいいのがよい
- 図書館の本をふやしてもらいたい。(一巻しかない本やシリーズの途中までしかない本

など) 大人がよそはよそうちはうちとよく言うけどすこしくらいはよそを取り入れてほしい。(部屋で縁を育てたいなど)

- 外にゴミ箱をふやしてほしい
- もっと公園や子どものあそびばをふやしてほしい

学校・友だち・いじめ・その他のことについて

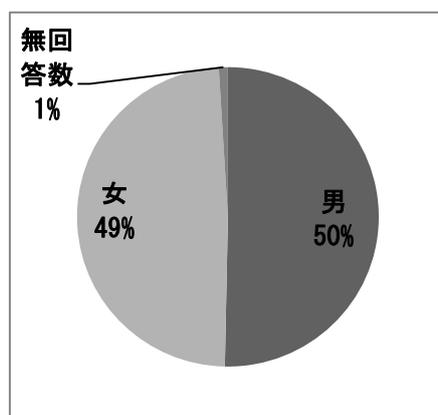
記述数 49

- 校庭がせまい きゅうしょくをおかわりしたい
- 学校の運動会のときょう走の時にスタートのところにひもがあり、すべてタイムがおそくなったことがあったのでひもをなくしてほしいです。おねがいします。
- 先生に言いたいことがある、習字があるときは2日前ぐらいに『習字バックをもってきてください』っていえばみんな習字バックを持ってくると思います。
- もしきょうかしょとかをなくしてしまったとき、きょうのよびのきょうかしょとかをあたりしたらいきいきとすごせる
- しゅくだいをなくしてほしいやりたくない
- 宿題をこの世からなくしてほしい
- ゲームを持って行っていい学校があればいいなと思う
- 登下校の時、友達と行き帰りしているけど、4人グループでいつも自分だけ、後ろにいて、現在は別の子と行き帰りをしている
- どんなことでも最後まで真けんに相談にのってくれるしせつがあるといいなと思う
- 人のものをかかってにつかってかいさないこと
- なにもしてないのにけられたんだけど、そこでびしっといいのかまたはやりかえしていいのか
- 友達ともっと仲良くしたい。
- ケンカをしないで、友だちと仲よくできるようにしたいです。
- 友達に『かっこつけ』などといわれて、いやな思いをして、自分では、かっこつけているつもりはないけどクラスみんながもし『かっこつけ』と少しでも思っているなら正直に言ってもらいたいです。そうすれば自分のいけないことが分かるしお互いかんちがいと気づけるかもしれないからです。
- 前の女子ととなりの女子に変なあだなでよばれているからもうやめてほしい
- けんかや悪口を言っている人がいてみんなが仲良くできないときがあることに悩んでいます。
- 今は私は楽しい生活が出来ていますが、クラスにちょっとイヤなことをする人がいて、少しこまります。人の性格だからしょうがないけど少しこまります。どうしたらいいですか
- じゅぎょうのじゃまをされたりすこしまちがったぐらいでしつこいのがいや
- 今は〇〇ちゃんがつねってきたりべーをしてきたりするのでそれがなくなればなと思います
- グループがあってなんか仲間はずれにされている、別のところへいけない。
- 授業のじゃまをしてほしくないと思っている
- エコひいきしたり、いつも自分だけがウソだといわれ、しんじてくれなくて人がウソをついてゆったことをしんじてやってないのにやったことにされているのがいやだからじゅけんにせいこうしてみかえしてやりたい
- むしされたりするのがやだ

- いやだと思うことをやめてほしい。
- よくたたかれたりけられたりすることがある
- たとえば、A君がBさんをさわったら、A君が『わーBきんだ』といってC君にタッチして「Bきんわたすんじゃねーよ。」と言ってD君にタッチして…と続くとBさんが苦しむのできんゲームなどをふせぎたいと思っています。以上です。
- ○○○さんにいじめられる
- いっしょうしゃべりかけるなとかいわないこと。友達を仲まはずれにしないこと あれやこれやとかいわないこと
- いじめとかならないようにしてほしい
- 人が私に何をしたら「---」とあだなをつけられるから、なやんでます
- みんなに「くさ!」「あっち行け!」「悪臭!」などと言われている。むしされる。いきなり暴力を振られる。周りの人がいじめられているのをみていじめる方に仲間入りしてくる
- 転校してきたばかりなので友達作りに少しなやんでいる。
- 今なやんでいるのはベンキョウです
- 色々あってかききれない
- あるけど、書きたくありません。ごめんなさい
- なやみはあるけど書きたくない
- 友だちとあそびたくても遊べないことがこまっていることです。りゆうはほかのともだちがダメっていつてくるから。あとおやのきゅうりょうをあげてほしい
- 学校でクラスが変わり、仲の良い友だちとはなれて友だちがなかなかできないこと
- 自分がいっしょうにいたいともだちといようとすると、ほかの友達がわりこんでくるからいっしょにいたいこといっしょにいれない
- 【人権】この意味をもっとくわしくおしえてほしい
- もっとせっきょくてきにいじめをへらす
- じぎょうがしずかにしたい
- 学校は楽しいところ
- たまたま起きてしまった事を周りに広げる事。他の人がやめてと言っても嫌なことをしてくる事 相談できる人が増えてほしい
- 強い人がいじめていた時、注意することができないから
- みんなと仲良くなりたいたいの、友達が私とだけ仲良くなりたいたいといってすごいせめられてくる
- 友だちがキれるといつも文句を言ってきたり蹴ったりします。けるとほくがよくれます。でもあとになってあやまってきたりします。
- いじめられる理由強く言われる理由
- いじめをしないクラスにするにはどうするのか

Ⅲ. 調査結果（中学２年生）

（問１）「あなたの性別を教えてください。」から回答者数等を集計しました
市内中学２年生人数 1332 人（全体人数）に対して 310 人（23%）の生徒から回答を得ました。その内訳は、男子 156 人、女子 151 人と性別無回答 3 人です。回答した児童の男女比は【図 1】の通りです。



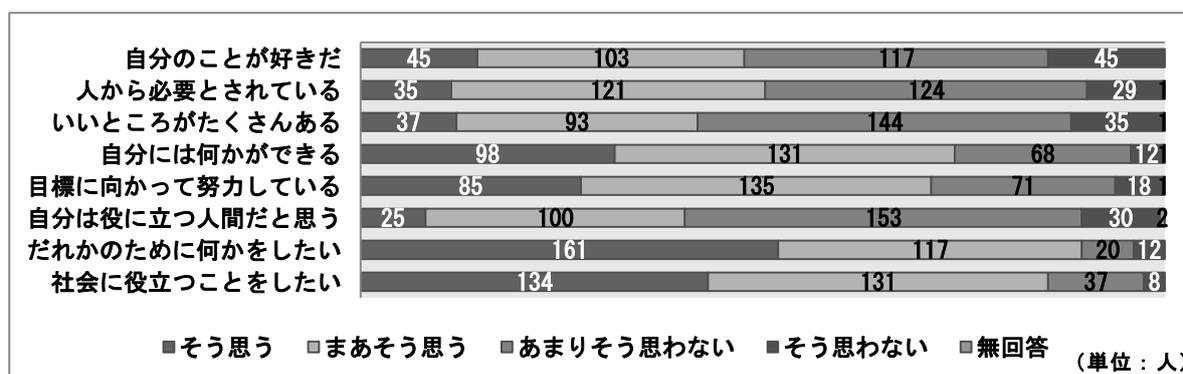
【図 1】 調査回答児童の男女比

1. 立川市の子どもの自己肯定感の現状

「子どもの自己肯定感」については、昨今、子どもの育ちをめぐるさまざまな場面で大きな論点となっています。今回の調査においては、子どもたちに対する質問紙上の用語解説で、「自己肯定感」について次のような説明を付けました。

自己肯定感とは…自分が生きていることには意味がある、自分は愛される価値がある、自分は大事な存在である、自分には何かできる、などと、自分自身を肯定的にとらえる感覚をいいます。生きていく上で、とても大切な感覚です。

（問 2）「あなたは、自分のことについて、次のようなことを思いますか。」では、このような認識に立ち、自分のことを肯定的にとらえ、自分は役に立つと感じているかどうかを子どもたちに答えてもらったところ【図 2】のようになりました。



【図 2】 子どもの自己肯定感などについて

またこの結果を

- ・「**そう思う**」「**まあそう思う**」と回答した児童 ⇒ 肯定的回答グループ
 - ・「**あまりそう思わない**」「**そう思わない**」と回答をした児童 ⇒ 否定的回答グループ
- の2つのグループに分けて比較したところ、次のようになりました。

質 問	グループ	人数	割合
① 自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	148人	48%
	否定的回答グループ	162人	52%
② 自分は人から必要とされている	肯定的回答グループ	156人	50%
	否定的回答グループ	153人	49%
③ 自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	130人	42%
	否定的回答グループ	179人	58%
④ 自分には何かができる	肯定的回答グループ	229人	74%
	否定的回答グループ	80人	26%
⑤ 自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	220人	71%
	否定的回答グループ	89人	29%
⑥ 自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	125人	40%
	否定的回答グループ	183人	59%
⑦ だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	278人	90%
	否定的回答グループ	32人	10%
⑧ 社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	265人	85%
	否定的回答グループ	45人	15%

【表 2-1】子どもの自己肯定感などについて

各回答グループの割合をみると、「①自分のことが好きだ」、「③自分にはいいところがたくさんある」「⑥自分は役に立つ人間だと思う」の項目で否定的回答グループが肯定的回答グループを上回っています。これとは逆に「⑦だれかのために何かをしたい」「⑧社会に役立つことをしたい」の2項目については、肯定的回答グループが高い値になっており、自分への評価が控えめなもの、他者や社会に対して何かしたい、役に立ちたい、という気持ちを抱いている生徒が多いことがわかります。また、「④自分には何かができる」、「⑤自分は目標に向かって努力している」についても肯定回答グループが高い値になっており、自分自身の力を信じ将来に向かって努力している人が多いことがわかります。

男女差についてみると「⑤目標に向かって努力している」の肯定的回答グループにおいて、男子 103 人（66%）に対し女子 114 人（75%）と 9 ポイントの差がありました。また、「⑦だれかのために何かをしたい」の肯定的回答グループのうち「**そう思う**」を選んだ割合は、女子 144 人（95%）に対し男子 131 人（84%）と 11 ポイントの差がありました。「⑧社会に役立つことをしたい」についても、「**そう思う**」を選んだ割合は、女子 136 人（90%）に対し男子 126 人（81%）と 9 ポイントの差がありました。このほかの項目については、男女の割合はほぼ同じでした。

質 問	グループ	男子		女子	
① 自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	78人	50%	68人	45%
	否定的回答グループ	78人	50%	83人	55%
② 自分は人から必要とされている	肯定的回答グループ	75人	48%	78人	52%
	否定的回答グループ	81人	52%	72人	48%
③ 自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	67人	43%	60人	40%
	否定的回答グループ	89人	57%	90人	60%
④ 自分には何かができる	肯定的回答グループ	116人	74%	110人	73%
	否定的回答グループ	39人	25%	41人	27%
⑤ 自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	103人	66%	114人	75%
	否定的回答グループ	52人	33%	37人	25%
⑥ 自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	61人	39%	61人	40%
	否定的回答グループ	94人	60%	89人	59%
⑦ だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	131人	84%	144人	95%
	否定的回答グループ	25人	16%	7人	5%
⑧ 社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	126人	81%	136人	90%
	否定的回答グループ	30人	19%	15人	10%

【表 2-2】 子どもの自己肯定感などについて

平成 18 年、平成 23 年に、今回と同じ質問項目で中学 2 年生を対象に実施した時の結果と比較すると、すべての項目で肯定的な回答が年々増加していることがわかります。

質 問	グループ	H18 中学 2 年生		H23 中学 2 年生		H28 中学 2 年生	
① 自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	75人	25%	105人	35%	148人	48%
	否定的回答グループ	217人	73%	193人	64%	162人	52%
② 自分は人から必要とされている	肯定的回答グループ	75人	25%	125人	42%	156人	50%
	否定的回答グループ	216人	73%	173人	58%	153人	49%
③ 自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	63人	21%	101人	34%	130人	42%
	否定的回答グループ	230人	78%	198人	66%	179人	58%
④ 自分には何かができる	肯定的回答グループ	176人	60%	187人	62%	229人	74%
	否定的回答グループ	116人	39%	112人	37%	80人	26%
⑤ 自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	162人	55%	200人	67%	200人	71%
	否定的回答グループ	132人	45%	99人	33%	89人	29%
⑥ 自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	63人	21%	104人	35%	125人	40%
	否定的回答グループ	228人	77%	192人	64%	183人	59%
⑦ だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	222人	75%	243人	81%	278人	90%
	否定的回答グループ	72人	24%	57人	19%	32人	10%
⑧ 社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	203人	69%	223人	74%	265人	85%
	否定的回答グループ	91人	31%	77人	26%	45人	15%

【表 2-3】 子どもの自己肯定感などに関する調査の H20・H23・H28 回答結果比較

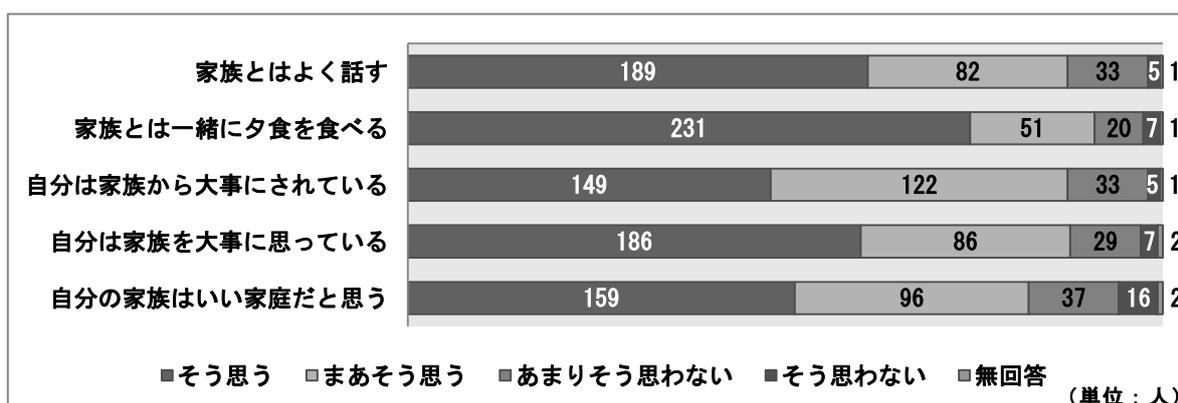
2. 子どもと家庭；居場所と自分を大切に思ってくれる人の存在

(1) 基本的な存在としての親との関係

(問3)「①自分の家庭についてどう思うか」の設問で、「家族とはよく話す」と回答する割合が、「**そう思う**」、「**まあそう思う**」を合わせると271人(87%)、「②家族とは一緒に夕食を食べる」と回答する割合についても、「**そう思う**」、「**まあそう思う**」を合わせると282人(91%)という値になり、家族とのコミュニケーションの場が、家庭生活の中で確保されている割合は高くなっています。

家庭生活に対する子どもからの評価もまた高い割合を示し、「⑤自分の家庭はいい家庭だ**と思う**」という項目に「**そう思う**」、「**まあそう思う**」と回答する割合が合わせて255人(82%)になっています。家族との人間関係において、「③自分は家族から**大事に**されている」という項目に「**そう思う**」、「**まあそう思う**」と回答する割合が合わせて271人(87%)、「④自分は家族を**大事に**思っている」という項目に「**そう思う**」、「**まあそう思う**」と回答する割合が合わせて272人(88%)と、家庭や家族に関する設問項目に対しては、いずれも肯定的な回答が大部分を占めています。中学生にとっても、家庭は日常生活の中で大きな位置を占めていることがわかります。

肯定的な回答の割合を平成23年の調査と比べると「④自分は家族を大事に思っている」は同ポイント、それ以外の項目は前回の結果を上回りました。



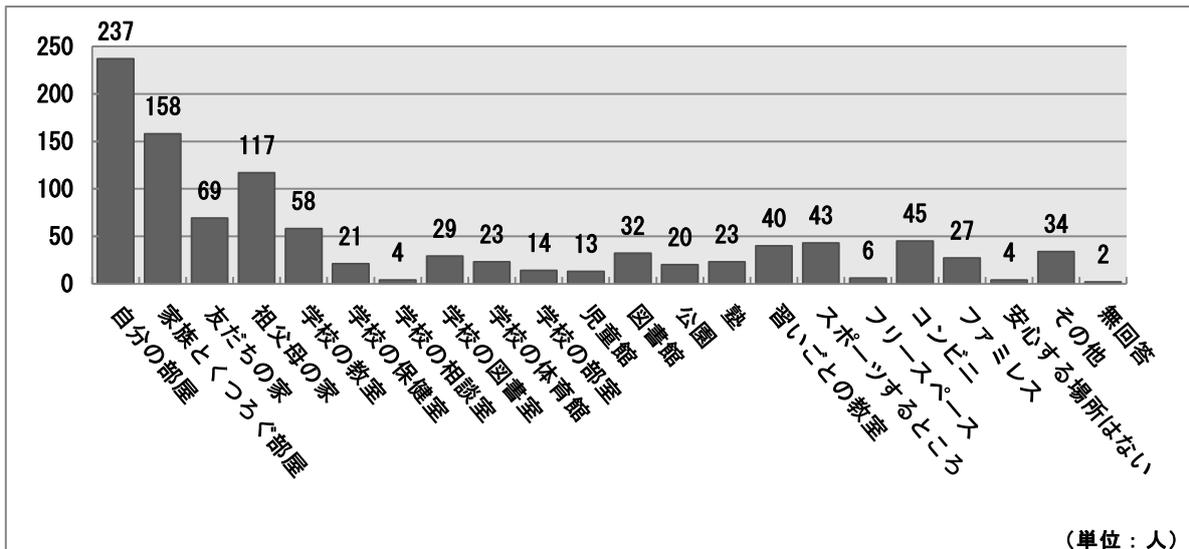
【図3】自分の家庭について

(2) 子どもが安心していられる場所

(問4)「あなたがホッとでき、安心していられる場所はどこか」(複数回答)の設問に最も多く回答があったのは、「**自分の部屋**」237人(76%)、次いで「**家族と一緒にくつろぐ部屋**」158人(51%)、「**祖父母の家**」117人(38%)、「**友だちの家**」69人(22%)、「**学校の教室**」58人(19%)と続きました。その他欄の自由記述に22件の回答があり、主な内容は「**お風呂(5件)**」「**トイレ(4件)**」「**寝室(ベッド、ふとん(2件))**」「**駅(2件)**」「**一人になれるところ(1件)**」などの意見がありました。

この回答には一部に男女差がありました。「**学校の保健室**」では女子15人(10%)に対し男子6人(4%)、「**スポーツをするところ**」では男子34人(22%)に対し女子9人(6%)となっています。

また、前回調査と上位5つを比較すると順位に変動はありませんでした。

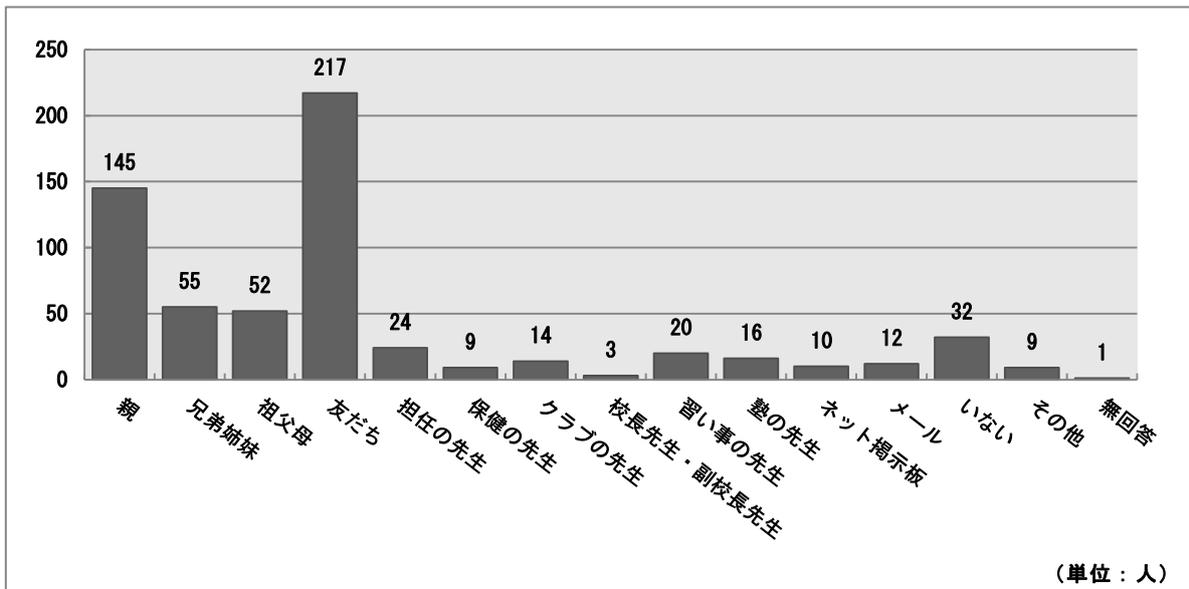


【図4】ホッとでき、安心していられる場所

(3) 信頼できる人について

(問5)「なやみを何でも話せる人はだれか」(複数回答) に対する回答は「友だち」217人(70%)、「親」145人(47%)、「兄弟姉妹」55人(18%)、「祖父母」52人(17%)「いない」32人(10%)、の順になっています。また、学校関係者の「担任・副担任などの先生」「保健室の先生」「クラブの顧問の先生」「校長先生・副校長先生」を合わせると50人(16%)になります。また、「何でも話せる人はいない」は32人(10%)となっています。その他の回答では10件の回答があり、「従妹・親戚(3件)」「自分自身(3件)」などの意見がありました。

前回調査と上位5つを比較すると、順位の変動はありませんでした。

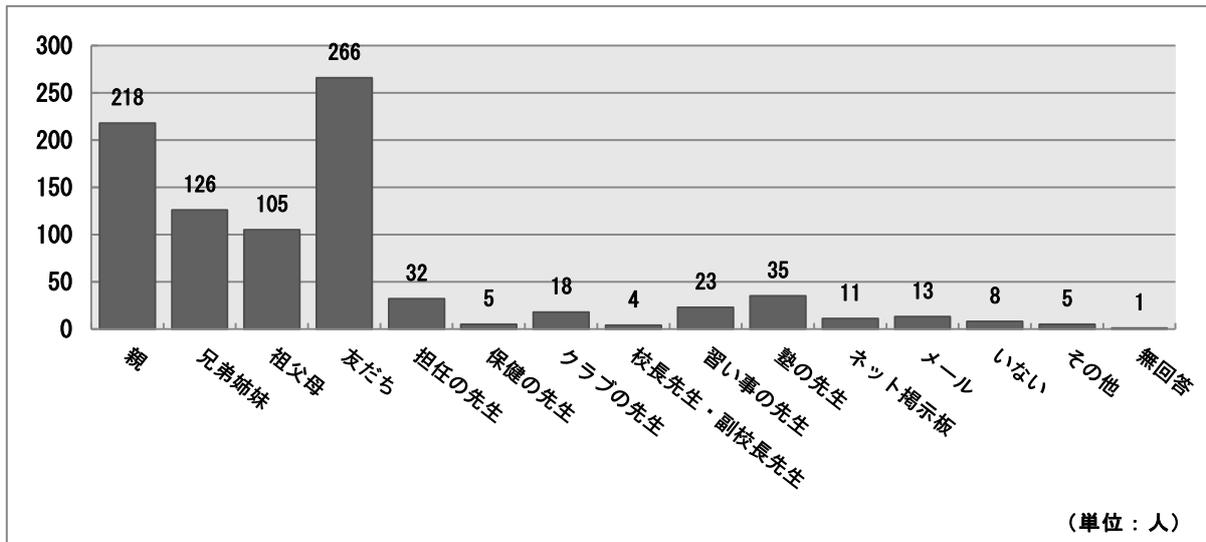


【図5】悩みを話せる人

(問6)「楽しかったことなどを何でも話せる人はだれか」(複数回答) に対する回答と比較してみます。最も多いのが「友だち」266人(86%)、次に「親」218人(70%)、以下「兄弟姉妹」126人(41%)、「祖父母」105人(34%)、「塾の先生」35人(11%)と続き、上記の回答はいずれも(問5)「なやみを何でも話せる人はだれか」への回答に比べ高い値を示しています。「何でも話せる人はいない」を選んだ生徒は8人(3%)と、(問5)に比べ少なくなっています。その他の回答では5人の回答があり、「自分自身(2件)」などの意見がありました。

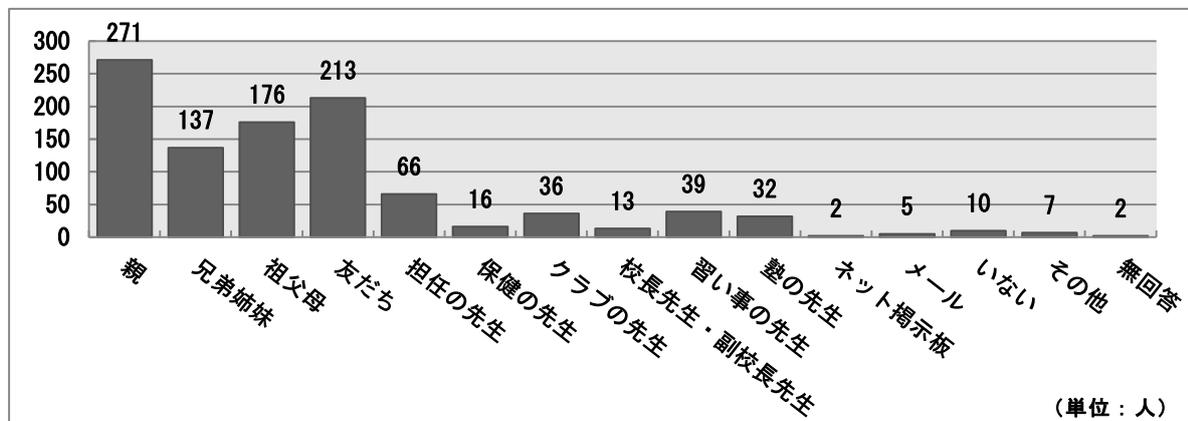
男女差では「友だち」「親」「兄弟姉妹」で女子が男子を1割程度上回った一方で、「クラブ・顧問の先生」、「何でも話せる人はいない」では男子が女子の回答数を上回りました。

また、前回調査と上位5つを比較すると、上位4つの順位は変わりませんでした。5番目が「メール」から「塾の先生」に変わりました。



【図6】楽しかったことを話せる人

(問7)「あなたを大切に思ってくれていると思える人はだれか」(複数回答) の設問に「親」を選んだ生徒は、一番多く271人(87%)、次に「友だち」213人(69%)、「祖父母」176人(57%)、「兄弟姉妹」137人(44%)がこれに続いています。中学生にとっても親は、自分を大切に思ってくれているという信頼感を抱ける、基本的な存在であることがうかがえます。前回調査と上位5つを比較すると比較すると順位の変動はありませんでした。

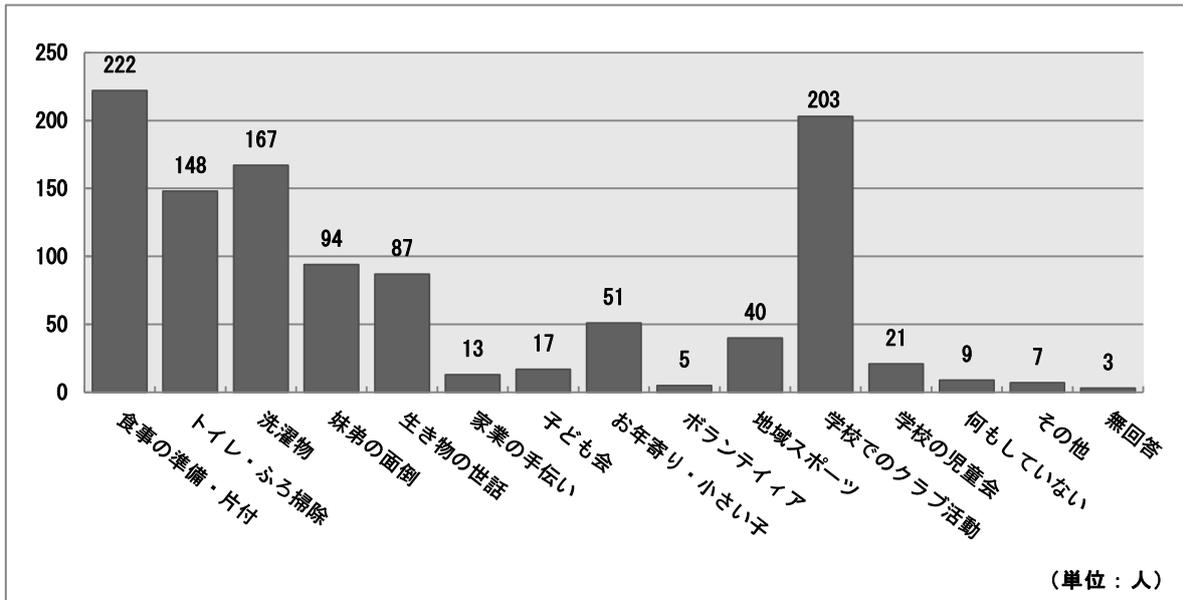


【図7】自分を大切に思ってくれる人

(4) 家庭・学校・地域での役割について

(問8)「家庭・学校・地域で、何らかの役割をになっているか」(複数回答)の設問では、回答の多い方から順に「食事の準備や後片付け」222人(72%)、「学校でのクラブ活動」203人(65%)、「洗濯物を取りこんだりたたんだりする」167人(54%)、「トイレやおふろの掃除」148人(48%)、「妹弟の面倒」94人(30%)と続いています。

また、前回調査と上位5つを比較すると、上位4つの順位は変わりませんでした。5番目が「生き物の世話」から「妹弟の面倒」に変わりました。



【図8】家庭・学校・地域で、になっている役割

3. 「将来の夢」や「苦しくても頑張ったこと」

(問9)「将来やってみたいことややりたい職業など、自分なりの夢はあるか」という設問で、「ある」「なんとなくある」と答えた生徒の割合は 249 人(80%)でした。将来への夢やイメージは高い割合でもっているようです。

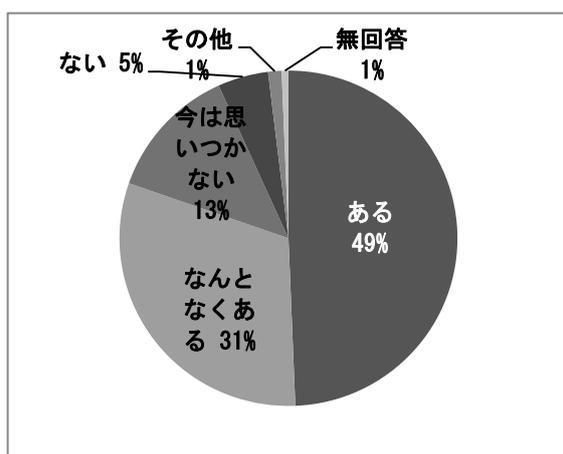
この回答の一部に男女差が見られました。「ある」と回答した女子が 81 人(54%)に対し、男子 65 人(42%)となっています。

前回の調査との比較では、割合はほぼ同じでした。

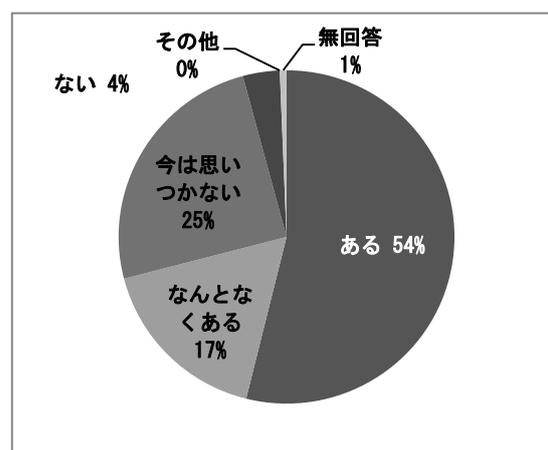
(問10)「苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験はあるか」という設問に、「ある」「なんとなくある」と答えた児童の割合は 220 人(71%)でした。苦しいけれど頑張った、大変だったけれどがんばった、という経験の記憶も高い割合でもっているようです。

この回答の一部に男女差が見られました。「ある」と回答した女子が 90 人(60%)に対し、男子は 70 人(45%)でした。

また、前回の調査との比較では、「ある」「なんとなくある」を合わせて、7ポイント上がりました。



【図9】 将来の夢



【図10】 頑張った経験

また、この設問では（問 10-1）「それはどんなことか」という記述回答欄を設けたところ、201 件の回答がありました。主な内容ごとにまとめ、件数をカウントした結果が下表【表 10-1】です。「苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験」として、スポーツ・運動と学校行事が特に多くなっています。前回の調査と比較すると傾向や割合に変化はありませんでした。

問 10-1 がんばったこと 自由記述		H28	H23(参考)
1	スポーツ（部活、クラブチームなど）	99 件 (32%)	94 件 (31%)
2	学校行事（運動会、合唱祭、職場体験など）	49 件 (16%)	39 件 (13%)
3	勉強（学校、塾、テストなど）	21 件 (7%)	15 件 (5%)
4	習い事（文化系）	6 件 (2%)	8 件 (3%)
5	趣味、遊び	4 件 (1%)	6 件 (2%)
6	友人関係、対人関係	3 件 (1%)	3 件 (1%)
7	家庭の手伝い、地域活動	2 件 (1%)	3 件 (1%)
8	その他	17 件 (5%)	19 件 (6%)
合計		201 件 (65%)	187 件 (62%)

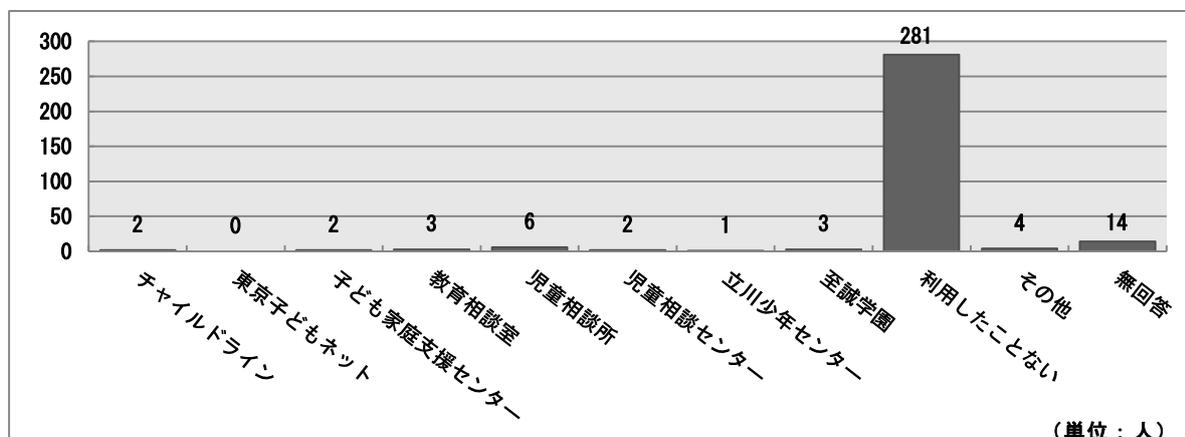
【表 10-1】「苦しいけれど頑張ったことや、大変だったけれど楽しかった経験」具体例

4. 相談機関などについての認識や意見

（問 1 1）「立川市の子どものための相談機関として利用したことがあるのはどれか」（複数回答）という設問に対しては、281 人（91%）の生徒が「利用したことはない」と回答しています。一方、利用したことのある回答の内訳は「児童相談所」が 6 件、「教育相談室」が 3 件、「チャイルドラインたちかわ」が 2 件、「子ども家庭支援センター」が 2 件など、全部で 23 件、15 人(5%)が相談したことがあると回答しました。

平成 23 年調査では「利用したことはない」の回答が 85%、利用したことがあるという回答数は 31 件 15 人(5%)でした。

相談機関が必要とされる機会や出来事がなく、子どもたちがのびのびと生活できていればそれが一番いいことです。しかし、実際にだれかに相談したい、といった局面で、そのアクセスを阻む要因があるなら、それを改善しなければなりません。

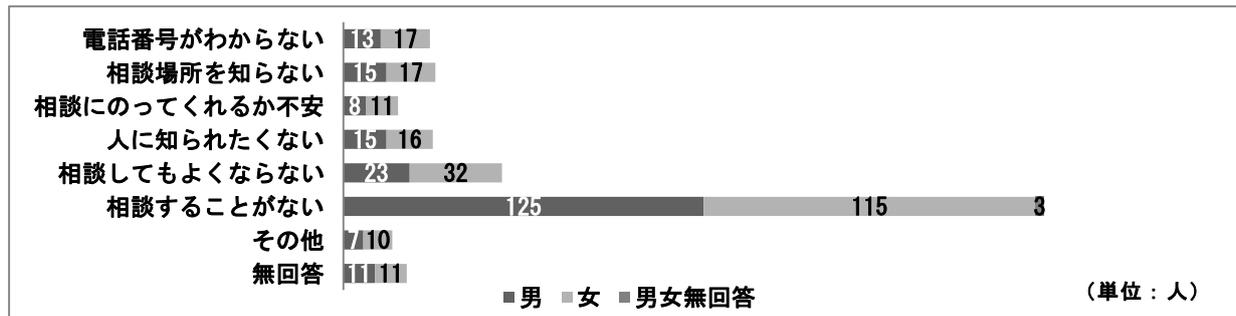


【図 1 1】利用したことのある相談機関

そこで、(問 11-1) では、上記の設問に「利用したことはない」と答えた人に対して、「それはなぜですか」(複数回答)と聞いてみました。

もっとも多かった回答は「特に相談することがないから」で、243人(78%)です。それ以外の選択肢の回答率を見ると、「相談場所を知らない」32件(10%)、「電話番号を知らない」30件(10%)など、いざというときのアクセス先を知らない児童がいることがわかります。

その他の意見には17件あり、「知らない人には相談したくない(4件)」、「友だちや親に相談している、身近に相談できる人がいる(3件)」、「自分で乗り越えたい(2件)」、などがありました。

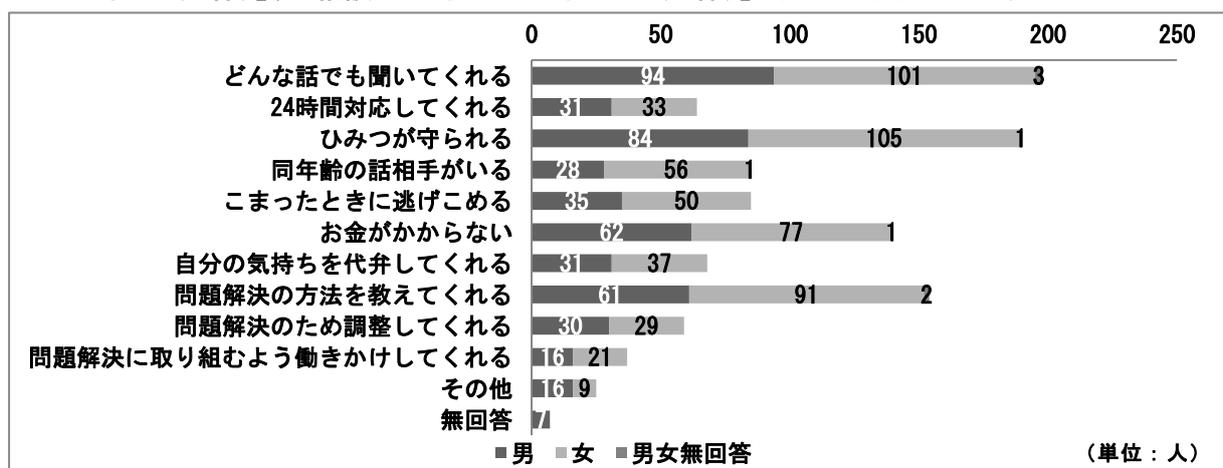


【図 11-1】 利用しない理由

(問 1 2) 「どんなところなら相談しようと思うか」(複数回答)という設問への回答は、以下のようになっています。

多かった回答は「どんな話でも聞いて受けとめてくれるところ」198人(64%)、「ひみつが守られるところ」190人(61%)、「問題の解決方法を教えてくれるところ」154人(50%)、「お金(電話代ほか)がかからないところ」140人(45%)、「こまったときに逃げこめるところ」85人(27%)、「自分と年齢の近い話し相手がいるところ」85人(27%)などがありました。

ほとんどの選択肢について女子の回答数が男子を上回っており、相談機関自体に対する関心については、女子は男子より高いことがうかがえます。その他の意見は25件あり、「相談したくない(4件)」、「相談できる人がいるから(1件)」などがありました。



【図 1 2】 どんなところなら相談するか

5. 「子どもの権利」の認識と社会参加する機会

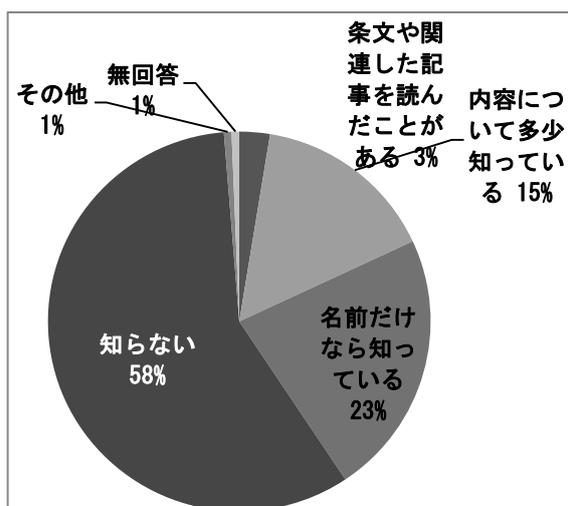
(1) 子どもの権利条約の認知度

(問13) 「子どもの権利条約を知っていますか」の問いに対し、認知度は「条文や関連した記事を読んだことがある」8人(3%)、「内容について多少知っている」48人(15%)、「名前だけは知っている」70人(23%)を合わせて126人(41%)です。平成23年度調査では、この3つの回答を合計すると45%で、今回の調査の方が4ポイント少なくなっています。

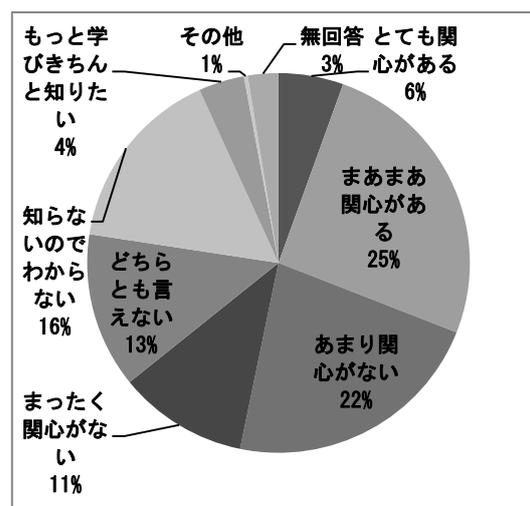
(2) 子どもの権利(人権)に対する関心

(問14) 「子どもの権利(人権)について、関心がありますか」の問いに対し、「とても関心がある」「まあまあ関心がある」「もっと学び、きちんと知りたい」の関心があるグループの合計が108人(35%)、「どちらとも言えない」「知らないのでわからない」の中庸グループが90人(29%)、「あまり関心がない」「まったく関心がない」の無関心グループ合計が103人(33%)と、関心があるグループが一番多い結果となっています。

前回調査では、中庸グループが104人(35%)で一番高く、2番目が無関心グループで94人(31%)、3番目は関心があるグループで92人(31%)の結果でした。



【図13】子どもの権利条約の認知度



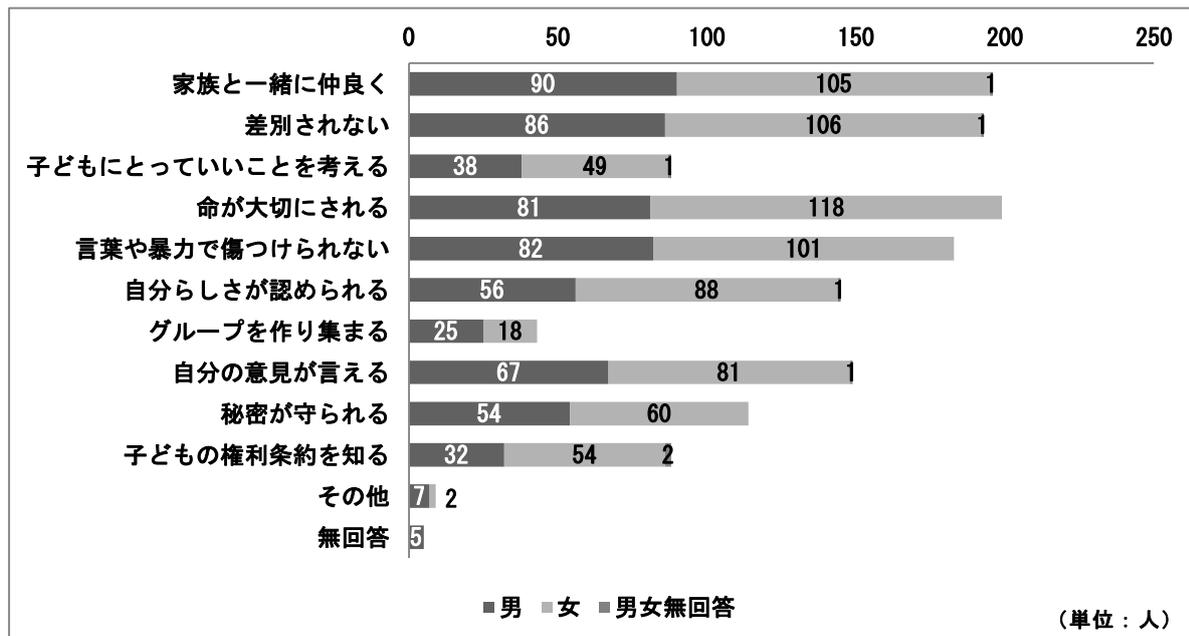
【図14】子どもの権利(人権)に対する関心

(3) 子どもの考える「子どもの権利(人権)」の内容

(問15) 「子どもの権利(人権)として、どんなことが特に大切だと思うか」(複数回答)の設問に対して、もっとも多かった回答は「子どもの命が大切にされること」199人(64%)、次いで「子どもが家族と仲良く一緒に過ごす時間を持つこと」196人(63%)、「子どもが、障害のあるなし、人種や言葉や信仰の違い、経済的な理由などによって差別されないこと」193人(62%)、「子どもが暴力や言葉で傷つけられないこと」183人(59%)「自分の意見が言えること」149人(48%)、などが続いています。

前回調査と上位5つを比較すると、1位から3位の順番は変わりませんが、前回調査では4位は「自分らしさが認められること」で5位は「子どもが暴力や言葉で傷つけられないこと」でした。また、「グループを作り集まる」以外の選択肢について、女子が男子の回答数

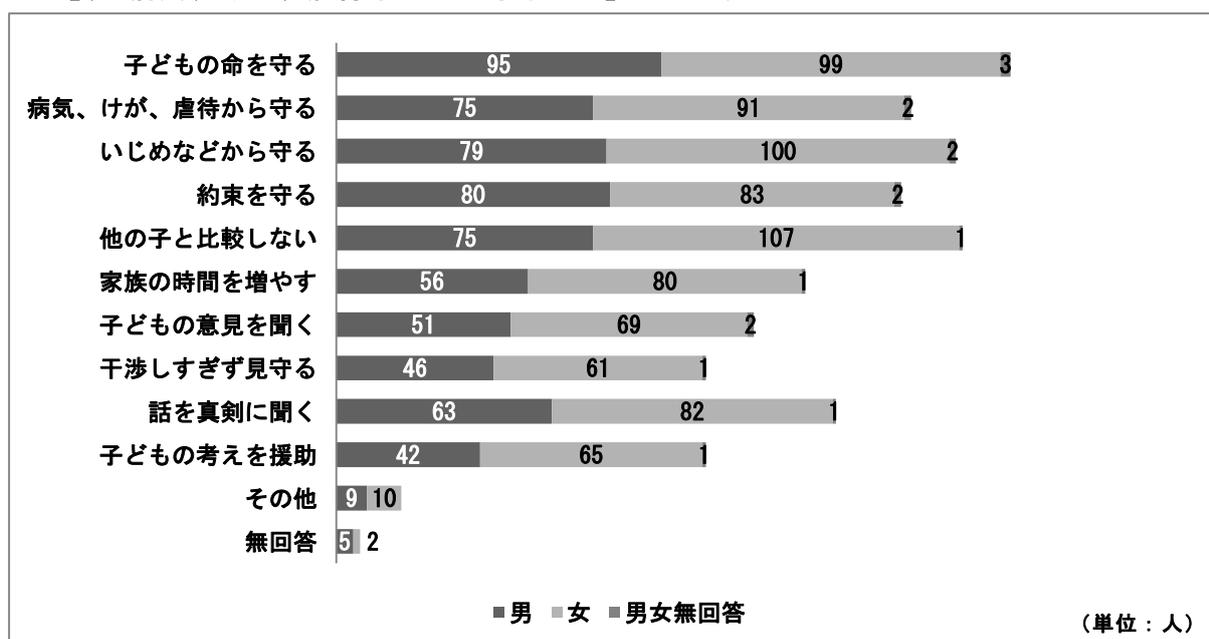
を上回っています。



【図15】子どもの権利(人権)として大切なこと

(問16)「大人に心がけてほしいのはどんなことか」(複数回答)の設問に対して、もっとも多かった回答は、「子どもの命を守ること」197人(64%)次いで、「他の子と比較しない」183人(59%)、「いじめや、まわりから心や体を傷つけられるようなことから子どもを守ること」181人(58%)、「病氣、けが、虐待などから守ること」168人(54%)「子どもとの約束を守ること」165人(53%)、などが続いています。なお、すべての設問で女子が男子の回答数を上回っています。

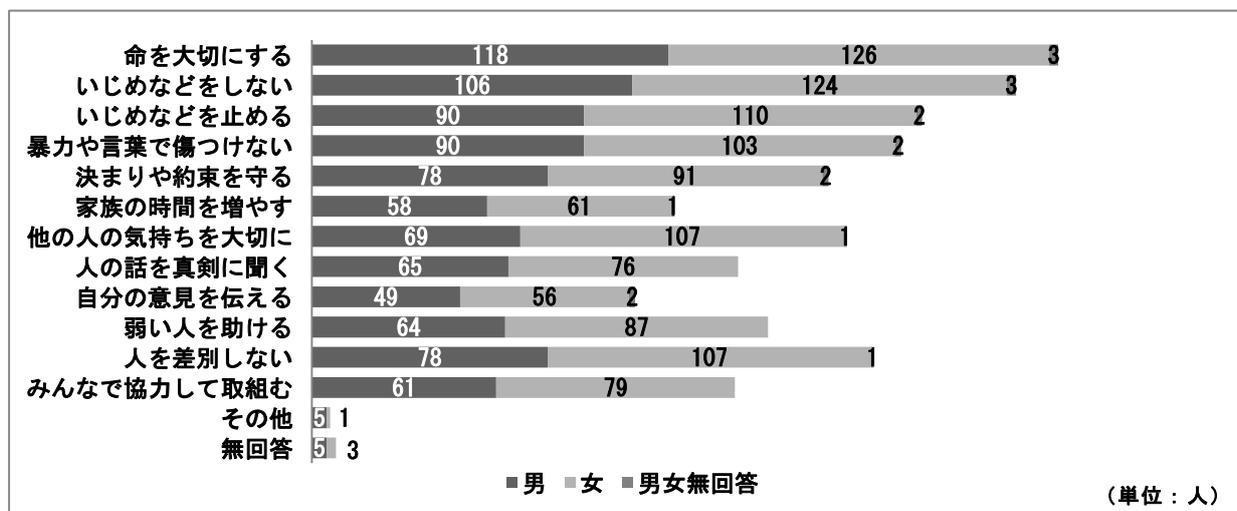
また、前回調査と上位5つを比較すると、すべての順番に変動がありました。前回調査では1位から順に、「他の子と比較しない」、「子どもの命を守ること」、「子どもとの約束を守ること」、「いじめや、まわりから心や体を傷つけられるようなことから子どもを守ること」、「病氣、けが、虐待などから守ること」でした。



【図16】大人に心がけてほしいこと

(問17)「子どもの権利(人権)を尊重し合うために、子ども自身も社会の一員として果たすべき義務や責任はどんなことか」にて対して、もっとも多かった回答は「自分の命、ほかの人の命を大切にすること」全体で247人(80%)、次いで「いじめや人がいやがることをしないこと」233人(75%)、「いじめや人がいやがることをやっている人を見たら止めること」202人(65%)、「他の人に暴力を振るったり、心を傷つけるひどい言葉を投げつけたりしないこと」195人(63%)、「人を差別しない」186人(60%)などが続いています。

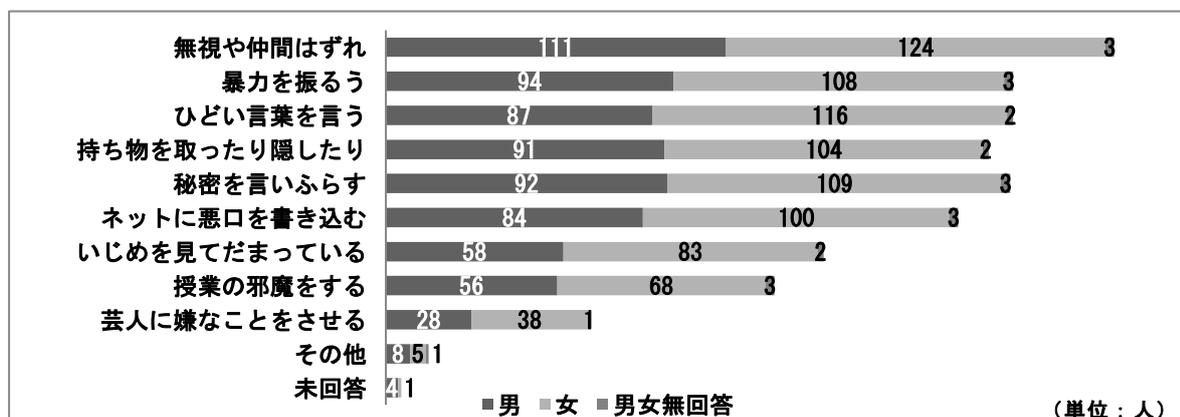
また、前回調査と上位5つを比較すると、1・2・5番目の順位に変動はありませんでしたが、3位「他の人に暴力を振るったり、心を傷つけるひどい言葉を投げつけたりしないこと」と4位「いじめや人がいやがることをやっている人を見たら止めること」が入れ替わりました。



【図17】子どもの果たすべきこと

(問18)「他の人の権利(人権)を大切にしていなかったり、侵害していると感じるのはどれか」(複数回答)の設問に対しては、もっとも多かった回答は「特定の人を無視したり、仲間はずれにする」238人(77%)、次いで「他の人の心を傷つけるようなひどい言葉を言う」205人(66%)、「他の人に暴力をふるう」205人(66%)、「他の人が秘密にしていることを言いふらす」204人(66%)、「他の人の持ち物やお金を、取ったり隠したりする」197人(64%)、などが続いています。

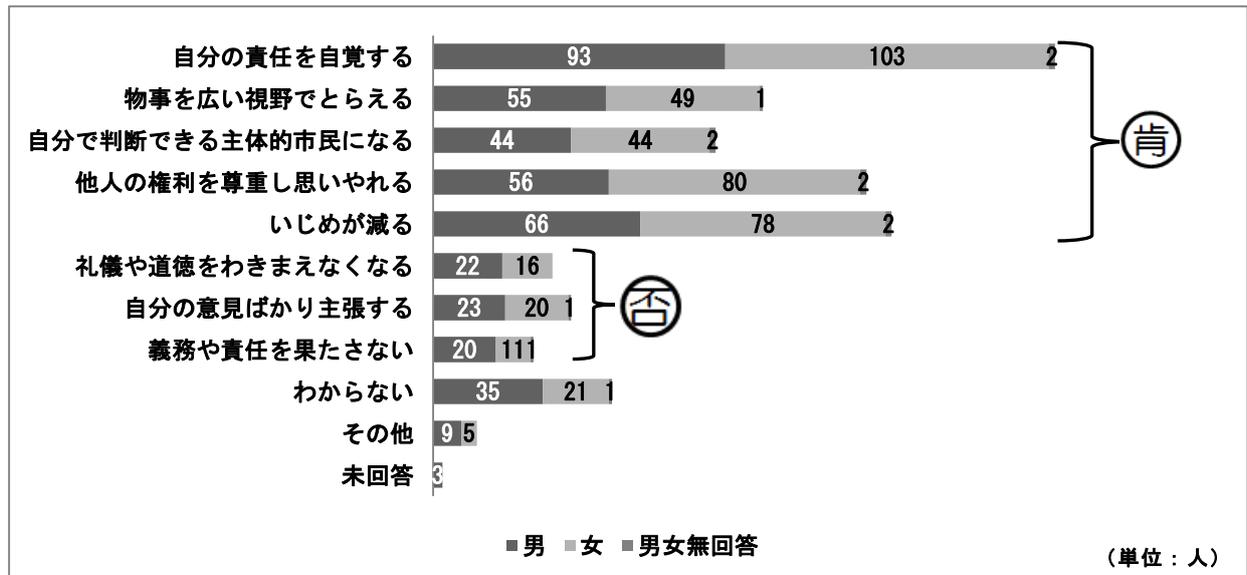
この設問に対する回答でも、女子の回答数は男子の回答数を上回っていました。



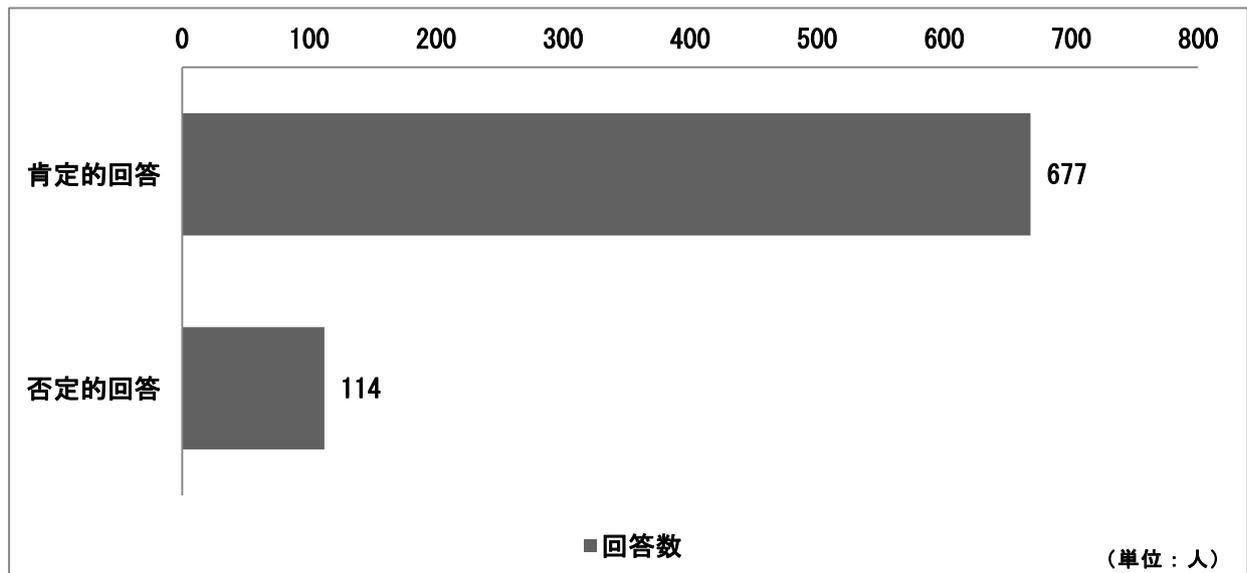
【図18】人権侵害と感ずること

(問19)「子どもの権利(人権)についてみんなが知るようになると、どんな効果や影響があるか」(複数回答)の設問に対する回答で、もっとも多かった回答は「子どもが自分自身の責任を自覚するようになる」198人(64%)、次いで「いじめが減る」146人(47%)、「他人の権利を尊重し、思いやりの心をもてるようになる」138人(45%)、「物事を広い視野でとらえることができるようになる」105人(34%)、「自分で考え自分で判断できる主体的な市民が育つ」90人(29%)でした。子どもの権利をみんなが知ったときの効果や影響は肯定的に捉える回答が多い結果になっています。

また、「その他」の記述は、14件で、「なにも変わらない(9件)」などがありました。



【図19】子どもの権利(人権)周知の効果や影響



【図19-1】子どもの権利(人権)周知の効果や影響

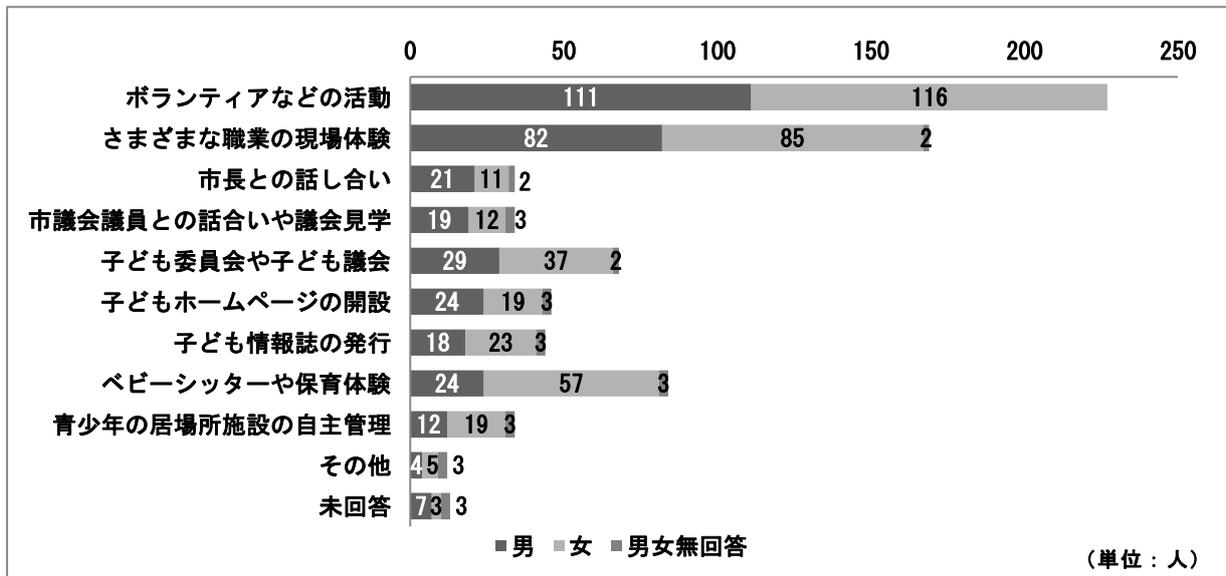
(4) 子どもが社会に参加する機会

(問20)「子どもが社会に参加する機会として、どのような活動がいいと思うか」(複数回答)の設問に対する回答では、もっとも多かった回答は「ボランティアなどの活動」全体で227人(73%)、次いで「様々な職業の現場体験」169人(55%)、「ベビーシッターや保育など小さい子どもと遊ぶ体験」84人(27%)、「子ども委員会や子ども議会」68人(22%)、「子どもホームページの開設」46人(15%)の順でした。

この回答に一部男女差が見られました。「ベビーシッターや保育など小さい子どもと遊ぶ体験」は女子57人(38%)、男子24人(15%)、「子ども委員会や子ども議会の設置」は女子37人(25%)、男子29人(19%)で女子が男子を上回っています。逆に「市長との話し合い」は女子11人(7%)、男子21人(13%)、「市議会議員との懇談会や議会見学」は女子12人(8%)、男子19人(12%)で男子が女子を上回っています。

また、「その他」への記述では12件の回答があり、「わからない(3件)」「地震の復興に協力したい(1件)」などがありました。

前回調査と上位5つを比較すると、上位4つの順位に変わりはありませんでしたが、5番目が「子ども情報誌の発行」から「子どもホームページの開設」に変わりました。



【図20】子どもの社会参加の機会

6. 自由記述

自由記述は、質問紙の最後に、設問なしで自由に記述のあったもののまとめです。書かれた内容は様々であり、おおまかに以下の5つのカテゴリーに分類し全記述を掲載しました。

ない（自由意見はない、悩みはない）

記述数 68

「特にありません」「なし」「毎日、明るく楽しくすごしているので、悩んでいることはありません」「特になしです。悩み、言いたいこと、は全て親に言うので・・・」など

親や家族について

記述数 11

- ・家庭のこと 友達との関係のこと 勉強のこと
- ・親のそくばくがイヤ。すこしでもいいからじゆうになりたい
- ・今いっしょにくらしている人たちが勝手に物をうばったり自分の思い通りにならないとやつあたりしてくる人がいるので、とてもすごしにくいです。しかも年下だからといって攻撃してくるのでやり返すとこっちがおこられるのがいやだ。年が近い人ならいい年下でも悪いと思う。自分の思い通りなところがあればいいと思う。
- ・家からはなれてせつでくらしたい そうしないといつかとりかえしのつかないことをすると思う
- ・私は、母が専門学校に通いはじめた（つい最近）。部活から帰っていえにつくのは7時すぎだ。だからおばあちゃんの家でごはんをたべてから、実家（？）にかえるというシステムになっています。ところがつい最近、おばあちゃんがでかけて、ごはんの支度を私がして弟にたべさせて、家につれてかえれといわれ、家にかえったら、協力して家事をやるように言われているのに、小6にもなる弟はゲームばかりでさすがに頭にきたので母にそうだんしたら、私がおこられた。「姉だから」「もっとしっかりしろ・・・」と。小6になるやつが怒られずゲームをしていて、母がかえってくるのは11時すぎ（がっこうだから）なのに「やることやってないくせに」といわれます。
- ・家族全員でごはんなど食べられたりしたいことです。
- ・家族との会話が少し少ない
- ・家庭にいる時間があまり好きではないのに家族が私のこと好きだからかまってきて嫌。迷惑。
- ・家族が大好きです。でも、両親のけんかが多く、私たちの居場所がなくなることがあります。それがなくなったら本当に幸せです。たまに離婚の話をしているのも聞こえてきます。また、お互いに対しての意見を長女の私に言うてくるのが嫌です。
- ・親はだいたい、子供になにかをやらせるのは、子供にとってはありがたいことだが、他の子とくらべたり自分がやりたいのに親はだめという。子供のためと親はおもっていても、それは子供へのプレッシャーや重圧をあたえてるだけだ。
- ・親がうざいです。なぐる。ける。たたく。暴言言うてくる。

自分なりの考え・思い・願い

記述数 12

- 大人と対等に係ることが大事
- 親、友達とけんかしても死ねなどの言葉を言わない方がいい
- 戦争法つづれろ児童ポルノ法決めた奴全員死刑二次そう作つづすな著作権法死ね
- かみのけをそめたり、ピアスをあけても良いと思う。なんでそれをしてる人が不良と思われるのかわからない。子供の自由をみとめてほしい。立川市内でなんで校則のゆるさに違いがあるのかわからない。3中がきびしい。評価の基準も、とういつしてほしい。
- このアンケートの問2を真剣にやっている人を見て、自分はこんなアンケートに無駄な時間をつかったと思った。
- この暮らしがこのまま続いてくれればよいと思っている。
- しょうしかとかいってるけど、子どもをあまり大切にしていないと思う。子供のことを考えていないと思う。
- 人権について深く考えられる機会があれば良いと思った。
- 【こんなところがあればいいな】防音でだれも気にせずさけべるところ（個室） お金がかからないような感じ
- こんなアンケートに書けるわけない。
- がんばってください
- 言いにくい

公共施設や世の中のこと（公共施設など）

記述数 18

- 戦争社会を作らないようにしてもらいたい。都心を便利にするのもいいけど、星が見たい。
- ららぽーと立川立飛はきたいはずれ。豊洲より大きいのに、店は豊洲や東京ベイのほうが良い。一番残念なのがナムコ。クレーンゲームしかない。あそこはあまり子供向けではない。キザニアみたいな所があれば、人も増えると思う。ユニクロはルミネにもあるのに。
- 車の信号無視が多いので、しっかり対策してほしい。自転車の逆があったほうが安全でいい。
- 差別のない社会にしてほしい
- 子供だけでごはんを食べている人が多く独食している子供がいるので”子供食堂”をつくってほしい
- がんばって下さい。
- 立川市のゴミを減らす。
- 良い町づくりをしてください
- 無料で色々なスポーツができる施設がほしい。
- 公園にはボール遊び禁止が多すぎる ボール遊びができる公園をふやしてほしい
- ボールを使える公園を増やしてほしい。
- 公園（野球やサッカーを自由にできるきれいな所）
- 部活動やそれ以外の練習などで学生が自由に競技場を利用できるようにしてほしい。

- もっと図書館を増やしてほしい
- 公園などがあっても、ボール遊びなどがあまりできないところ。体育館の開放など、バスケなどをやる場所が少ない。
- もっと、バスケットなどの気軽に出きるスポーツのしせつを増やして、スポーツを通じて、いろいろな人との交りゆうをする場を
- 42 億円もかけて使い勝手の悪い学校をたてないでいただきたい。
- 「いじめを無くそう」と簡単に言う人が多いが、もっと具体的にかつ大きな営響を与えるような事を公の場で発表したほうがいいと思う。積極的に行動することを人にでしゃばりなど文句を言うのはやめたほうがいい。

学校・友だち・いじめ・その他のことについて

記述数 21

- 転校したばかりで自分を出せない。
- 変なうわさやまちがった事を、学年中にばらす人がいて、自分の他にも被害者がいるのでやめてほしい。
- 体育大会でクラスとクラスの間にきれつがあって、けんかしている人もいるから仲よくしてほしい
- 中一の頃に、友人関係で悩んだことがある。それらを改善するにはどうすればより穏便に落ちつけられるのか、心配。
- 学校が楽しいです
- 授業中うるさい人がいて集中できないから集中できるようにしてほしい 学校にいつでもあいてる自習室がほしい もっとくわしく教えてほしい もっと部活の時間を増やしてほしい
- 学校に冷水器があれば、いいと思う。
- 学校に行きづらい？
- 部活が急に入るのに、とっても困ってます。部活がいやなわけじゃないけど、ある日はある、ない日はないと、はっきりしてほしい。
- 授業が少しうるさめで、休み時間におにごっこをしているのをやめてほしいと思う。ふざけているだけでも机がずれたりしてるので、そこはもう少し落ち着いてほしい。
- 毎日が勉強ばかりで大変だということ。
- とくにありません。がただ今までこのようなアンケートをしてきて何も変化がなかったと思います。なので、もっと頑張るべきではないのでしょうかあなた方の知らない所でいじめなどは、起きています。この学校でも←これから話し合うところです。
- 部活が大変過ぎて遊ぶ時間や勉強時間が取れないので、少し日数や活動時間を減らす、内容を楽にするなどの対処を取ってほしい。
- 部活で、土日あったら、月曜は休みにしてほしい
- 悩。部活の先生がイヤだ。キモいし、めっちゃキライ。
- 先生同士が仲良くしてもらいたい。ある先生二人の間に壁があるように見え、生徒には仲良くしろと言っているのに、まず先生が仲良くできていないのはおかしいと思った。人の良い面を見つけてほしい。
- 親の子供を学校に行かせる義務を権利にすること。
- 部活時間を短かくしてほしい。土日は全部休みにしろ。チャリ通をOKにしてほしい。ってかしろ。全部

- いじめをなくす
- 友だちにいやなことをいわれ、他の友達に相談したりまた、自分が傷つくのは、いやだから避けてしますようなことも『いじめ』なのか。いまではこんなことでも『いじめ』といわれるがどうなのか
- もっとたくさんの人に同じアンケートをとる

Ⅳ. 小学5年生と中学2年生の結果比較

小学5年生と中学2年生の調査結果で、数値や傾向に差異のあった設問について結果を並べて表記してみました。

(問2) あなたは自分のことについて次のようなことを思いますか

質 問	グループ	H28 小学5年生		H28 中学2年生	
①自分のことが好きだ	肯定的回答グループ	373人	59%	148人	48%
	否定的回答グループ	250人	40%	162人	52%
②自分には必要とされている	肯定的回答グループ	379人	60%	156人	50%
	否定的回答グループ	241人	38%	153人	49%
③自分にはいいところがたくさんある	肯定的回答グループ	373人	59%	130人	42%
	否定的回答グループ	249人	40%	179人	58%
④自分には何かができる	肯定的回答グループ	529人	84%	229人	74%
	否定的回答グループ	95人	15%	80人	26%
⑤自分は目標に向かって努力している	肯定的回答グループ	515人	82%	220人	71%
	否定的回答グループ	110人	17%	89人	29%
⑥自分は役に立つ人間だと思う	肯定的回答グループ	336人	53%	125人	40%
	否定的回答グループ	280人	44%	183人	59%
⑦だれかのために何かをしたい	肯定的回答グループ	570人	91%	278人	90%
	否定的回答グループ	56人	9%	32人	10%
⑧社会に役立つことをしたい	肯定的回答グループ	539人	86%	265人	85%
	否定的回答グループ	87人	14%	45人	15%

(問4) あなたがホッとでき、安心していられる場所はどこか

順位	1	2	3	4	5
小5	家族と一緒に部屋 435人 69%	自分の部屋 347人 55%	祖父母の家 306人 49%	学校の図書館 195人 31%	図書館・地域学習館 128人 20%
中2	自分の部屋 237人 76%	家族と一緒に部屋 158人 51%	祖父母の家 117人 38%	友だちの家 69人 22%	学校の教室 58人 19%

(問5) なやみを何でも話せる人はだれか

順位	1	2	3	4	5
小5	親 443人 70%	友だち 330人 52%	兄弟姉妹 178人 28%	祖父母 175人 28%	担任・副担任 98人 16%
中2	友だち 217人 70%	親 145人 47%	兄弟姉妹 55人 18%	祖父母 52人 17%	いない 32人 10%

(問6) 楽しかったことなどを何でも話せる人はだれか

順位	1	2	3	4	5
小5	親 555人 88%	友だち 497人 79%	兄妹姉妹 348人 55%	祖父母 339人 54%	担任・副担任 153人 24%
中2	友だち 266人 86%	親 218人 70%	兄弟姉妹 126人 41%	祖父母 105人 34%	塾の先生 35人 11%

(問7) あなたを大切に思ってくれていると思える人はだれか

順位	1	2	3	4	5
小5	親 577人 92%	祖父母 442人 70%	友だち 341人 54%	兄弟姉妹 330人 52%	担任・副担任 217人 34%
中2	親 271人 87%	友だち 213人 69%	祖父母 176人 57%	兄弟姉妹 137人 44%	担任・副担任 66人 21%

(問9) 将来やってみたいことややりたい職業など、自分なりの夢はあるか

	小5		中2	
ある	440人	70%	153人	49%
なんとなくある	115人	18%	96人	31%
今は思いつかない	44人	7%	40人	13%
ない	20人	3%	15人	5%

(問11-1) 相談機関を利用したことはないのはなぜですか

順位	小5	中2
1	特に相談することがないから 440人	特に相談することがないから 243人
2	相談場所を知らないから 103人	相談してもよくなりえないと思うから 55人
3	相談したことをだれかに知られたらいやだから 91人	相談場所を知らないから 32人

(問16) 大人に心がけてほしいのはどんなことか

順位	小5	中2
1	子どもの命を守ること 472人 75%	子どもの命を守ること 197人 64%
2	病気、けが、虐待などから守ること 417人 66%	他の子と比較しない 183人 59%
3	いじめや、まわりから心や体を傷つけられるようなことから子どもを守ること 407人 65%	いじめや、まわりから心や体を傷つけられるようなことから子どもを守ること 181人 58%
4	子どもとの約束を守ること 406人 64%	病気、けが、虐待などから守ること 168人 54%
5	家族の時間を増やすこと 399人 63%	子どもとの約束を守ること 165人 53%

V. 自己肯定感と他の項目とのクロス集計

問2-1「自分のことが好きだ」に対して「そう思う」「まあそう思う」と回答した子どものグループについて、いくつかの設問とクロス集計をしてみました(表下段の数字は、回答人数/総人数)。

【全体】

小学5年生			中学2年生		
	男子	女子		男子	女子
59%	59%	59%	48%	50%	45%
373/630	183/311	182/308	148/310	78/156	68/151

問3の③「自分は家族から大切にされている」に「そう思う」「まあそう思う」と回答した子どもの割合

小学5年生			中学2年生		
	男子	女子		男子	女子
97%	94%	100%	81%	79%	82%
354/365	172/183	182/182	118/146	62/78	56/68

問8で、「担っている役割」を3つ以上挙げた子どもの割合

小学5年生			中学2年生		
	男子	女子		男子	女子
80%	74%	86%	75%	67%	84%
293/365	136/183	157/182	109/146	52/78	57/68

問8で、「担っている役割」を5つ以上挙げた子どもの割合

小学5年生			中学2年生		
	男子	女子		男子	女子
41%	36%	46%	27%	24%	31%
150/365	66/183	84/182	40/146	19/78	21/68

問9で、「自分なりの夢」が「ある」「なんとなくある」と回答した子どもの割合

小学5年生			中学2年生		
	男子	女子		男子	女子
92%	89%	95%	86%	81%	93%
334/365	162/183	172/182	126/146	63/78	63/68

問10で、「苦しいけれど頑張ったことや大変だったけれど楽しかった経験」が「ある」「なんとなくある」と回答した子どもの割合

小学5年生			中学2年生		
	男子	女子		男子	女子
71%	71%	71%	52%	72%	82%
260/365	130/183	130/182	76/146	56/78	56/68